

# 有価証券報告書

事業年度 自 平成29年4月1日  
(第70期) 至 平成30年3月31日

株式会社 **なとり**

---

# 有価証券報告書

---

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

## 第70期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	6
5 【従業員の状況】	7
第2 【事業の状況】	8
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	8
2 【事業等のリスク】	8
3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	10
4 【経営上の重要な契約等】	14
5 【研究開発活動】	14
第3 【設備の状況】	16
1 【設備投資等の概要】	16
2 【主要な設備の状況】	16
3 【設備の新設、除却等の計画】	17
第4 【提出会社の状況】	18
1 【株式等の状況】	18
2 【自己株式の取得等の状況】	21
3 【配当政策】	22
4 【株価の推移】	22
5 【役員の状況】	23
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	26
第5 【経理の状況】	36
1 【連結財務諸表等】	37
2 【財務諸表等】	66
第6 【提出会社の株式事務の概要】	77
第7 【提出会社の参考情報】	78
1 【提出会社の親会社等の情報】	78
2 【その他の参考情報】	78
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	79

監査報告書

内部統制報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年6月29日

**【事業年度】** 第70期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

**【会社名】** 株式会社なとり

**【英訳名】** NATORI CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役会長兼社長 名 取 三 郎

**【本店の所在の場所】** 東京都北区王子5丁目5番1号

**【電話番号】** 03-5390-8111

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 経営企画部長兼経理部長 安 宅 茂

**【最寄りの連絡場所】** 東京都北区王子5丁目5番1号

**【電話番号】** 03-5390-8111

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 経営企画部長兼経理部長 安 宅 茂

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	36,379,167	38,204,723	41,063,275	43,364,945	45,481,764
経常利益 (千円)	1,698,238	1,833,335	2,203,308	2,017,227	1,289,621
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	985,683	1,111,406	1,251,927	1,343,526	817,270
包括利益 (千円)	1,119,431	1,222,184	1,199,355	1,383,482	1,035,424
純資産額 (千円)	15,689,090	16,348,959	17,334,405	18,497,614	19,293,780
総資産額 (千円)	27,684,068	29,441,800	30,521,229	36,432,123	38,983,864
1株当たり純資産額 (円)	1,222.40	1,299.30	1,377.61	1,470.06	1,533.35
1株当たり当期純利益 (円)	73.04	86.86	99.49	106.77	64.95
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	56.67	55.53	56.79	50.77	49.49
自己資本利益率 (%)	6.31	6.94	7.43	7.50	4.33
株価収益率 (倍)	15.25	17.55	16.37	17.33	29.65
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,480,565	2,068,359	1,798,159	549,393	3,830,458
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△587,133	△295,221	△265,206	△2,880,318	△2,710,279
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△1,340,639	△995,879	△1,083,687	2,299,893	△789,828
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	2,118,382	2,895,640	3,344,905	3,313,873	3,644,224
従業員数 〔外、平均臨時 雇用人員〕 (名)	753 〔681〕	782 〔676〕	801 〔667〕	843 〔626〕	836 〔577〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (千円)	34,000,125	35,885,612	38,730,980	41,011,155	43,249,554
経常利益 (千円)	1,267,576	1,369,846	2,091,543	1,315,434	1,017,143
当期純利益 (千円)	745,269	860,637	1,328,261	890,891	784,962
資本金 (千円)	1,975,125	1,975,125	1,975,125	1,975,125	1,975,125
発行済株式総数 (株)	15,032,209	15,032,209	15,032,209	15,032,209	15,032,209
純資産額 (千円)	14,018,800	14,455,980	15,547,742	16,273,001	16,917,482
総資産額 (千円)	24,194,697	25,672,877	27,037,714	32,547,173	35,058,312
1株当たり純資産額 (円)	1,092.26	1,148.86	1,235.62	1,293.26	1,344.49
1株当たり配当額 (内、1株当たり 中間配当額)	15.50 (7.50)	16.50 (8.00)	17.00 (8.50)	18.00 (9.00)	20.00 (10.00)
1株当たり当期純利益 (円)	55.22	67.26	105.56	70.80	62.38
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	57.94	56.31	57.50	50.00	48.26
自己資本利益率 (%)	5.30	6.04	8.85	5.60	4.73
株価収益率 (倍)	20.17	22.66	15.43	26.13	30.87
配当性向 (%)	28.07	24.53	16.10	25.42	32.06
従業員数 〔外、平均臨時 雇用人員〕 (名)	545 〔295〕	559 〔279〕	568 〔264〕	602 〔250〕	586 〔232〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第70期の1株当たり配当額20円には、設立70周年記念配当2円(中間配当1円、期末配当1円)が含まれております。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【沿革】

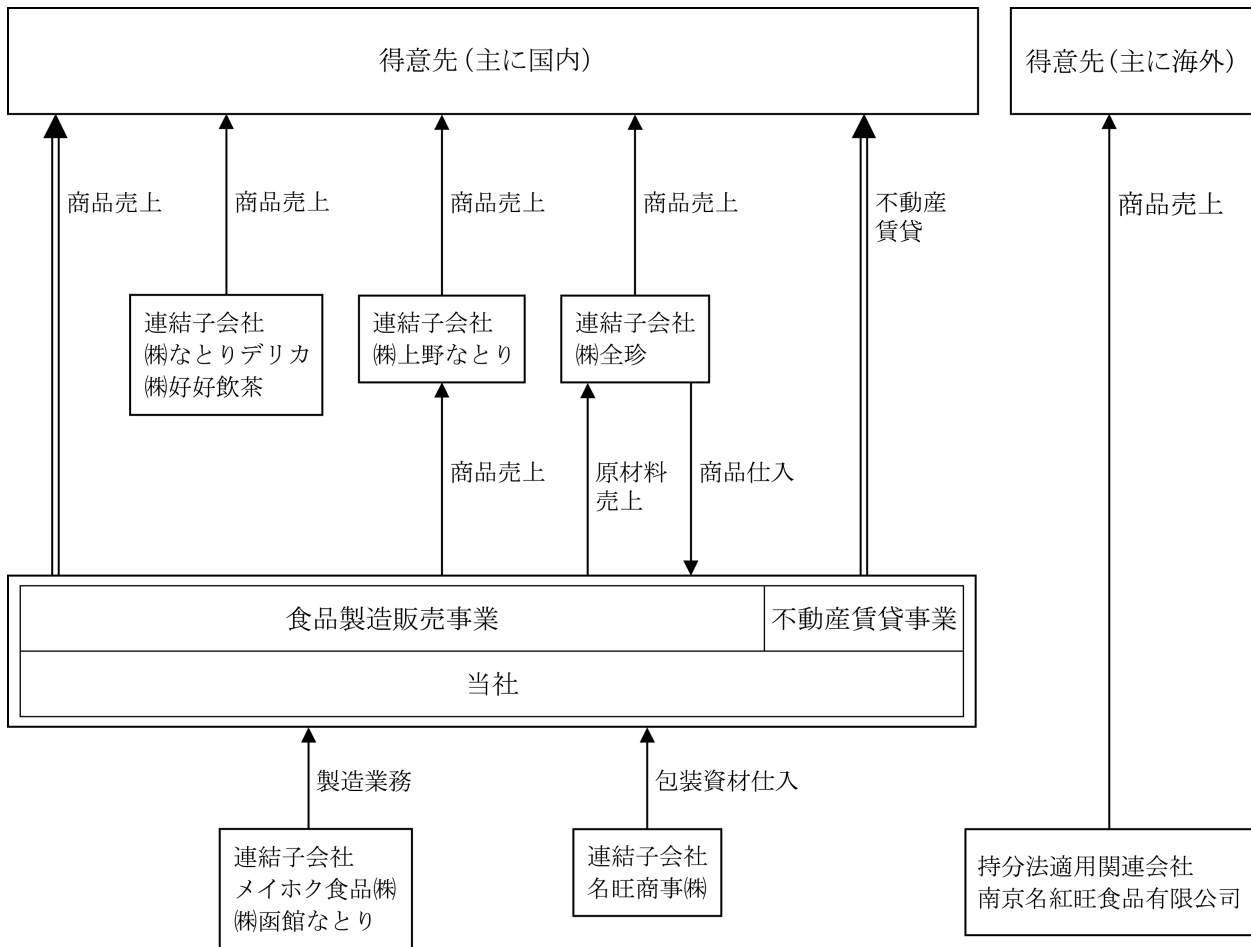
- 昭和23年6月 東京都北区東十条に加工水産物の製造を目的として株式会社名取商会を設立。(資本金2,000千円)
- 昭和23年9月 東京都北区東十条に工場(32坪)を買収、いかあられの製造を開始。
- 昭和25年3月 東京都北区宮堀(現神谷)に工場を賃借し、鱈そぼろ(無塩・有塩)の製造を開始。
- 昭和34年4月 東京都北区豊島に豊島工場(建坪750坪)を設置。操業開始。
- 昭和39年3月 なとり食品販売株式会社を設立。
- 昭和39年5月 株式会社なとり商會に商号変更。
- 昭和54年10月 株式会社なとりデリカを設立。(現・連結子会社)
- 昭和56年10月 コーポレート・アイデンティティ(CI)作業に取り組む。  
「おつまみコンセプト」を掲げ、商品ラインアップを珍味中心からおつまみ全般に拡大。
- 昭和57年2月 「おつまみコンセプト」による商品第1号としてチーズ鱈の製造を開始。
- 昭和57年7月 株式会社上野なとりを設立。(現・連結子会社)
- 昭和58年3月 株式会社好好飲茶を設立。(現・連結子会社)
- 昭和59年3月 埼玉工場(埼玉県久喜市)建設、畜肉加工及びチーズ鱈加工・包装ライン稼働。
- 昭和63年9月 メイホク食品株式会社を設立。(現・連結子会社)
- 平成3年5月 株式会社なとりに商号変更。
- 平成5年11月 株式会社函館なとりを設立。(現・連結子会社)
- 平成6年4月 なとり食品販売株式会社の全営業を譲受。
- 平成8年7月 東京都北区王子に本社を移転。
- 平成9年1月 株式会社全珍の株式を取得。同社を子会社とする。(現・連結子会社)
- 平成9年12月 埼玉工場チーズ鱈製造ラインがHACCP(危害分析重要管理点)基準適合の認定を取得。
- 平成10年2月 メイホク食品株式会社さきいか漁火製造ラインがHACCP基準適合の認定を取得。  
株式会社函館なとりチーズかまぼこ、いかくん製造ラインがHACCP基準適合の認定を取得。
- 平成10年5月 首都圏配送センター(埼玉県加須市)完成、稼働開始。
- 平成11年7月 埼玉工場が品質管理の国際規格「IS09001」の認証を取得。
- 平成11年11月 株式を店頭上場、公開。(資本金713,125千円)
- 平成12年9月 なとり本社が環境マネジメントシステムの国際規格「IS014001」の認証を取得。
- 平成13年2月 埼玉工場の隣地工場(現埼玉工場の一部)を取得し、豊島工場を移転。
- 平成13年9月 株式を東京証券取引所市場第二部上場。(資本金1,225,125千円)
- 平成14年4月 関係法令の遵守と企業倫理確立の観点から経営理念を見直し「企業行動規範」を制定。
- 平成14年9月 株式を東京証券取引所市場第一部へ指定替え、貸借銘柄へ選定。
- 平成15年3月 東京都北区豊島に食品総合ラボラトリー(R&Dセンター)完成。
- 平成15年11月 埼玉工場が環境マネジメントシステムの国際規格「IS014001」の認証を取得。
- 平成16年1月 株式会社東京証券取引所より「ディスクロージャー表彰」を受賞。
- 平成16年3月 産経新聞社、K F i株式会社共催による「誠実な企業賞 大賞」を受賞。
- 平成16年4月 「チルドおつまみ」を発売。
- 平成16年8月 食品関連の法令遵守を基本姿勢とした「なとり品質保証憲章」を制定。
- 平成17年4月 デンマーク豚肉機構連合より「デンマーク食品農業大臣賞」を受賞。
- 平成19年5月 「濃厚チーズ鱈」「一度は食べていただきたい 熟成チーズ鱈」が「モンドセレクション金賞」を受賞。
- 平成19年12月 東京都北区豊島に豊島ファクトリー&オフィス完成。(子会社株式会社なとりデリカ工場用及び子会社株式会社好好飲茶事務所用)
- 平成21年3月 子会社なとり納品代行株式会社を存続会社として、子会社名旺商事株式会社を吸収合併し、名旺商事株式会社に商号変更。(現・連結子会社)
- 平成22年5月 「一度は食べていただきたい 粗挽きサラミ」が「モンドセレクション金賞」を3年連続受賞。
- 平成24年1月 南京名紅旺食品有限公司を設立。(現・持分法適用関連会社)
- 平成24年2月 「チーズ鱈」がお客様の根強い人気に支えられて発売30周年を迎える。
- 平成26年2月 南京名紅旺食品有限公司において、おつまみ食品の製造販売を開始。
- 平成26年4月 平成27年3月期から平成30年3月期までを対象期間とする4ヵ年中期経営計画「バリューイノベーション70」を新たにスタート。
- 平成27年2月 「チーズ鱈」が日本食糧新聞社制定「第33回食品ヒット大賞『ロングセラー賞』」を受賞。
- 平成27年4月 「ジャッキーカルパス」がお客様の根強い人気に支えられて発売30周年を迎える。
- 平成29年5月 酪農加工製品専用の埼玉第二工場(埼玉県久喜市)完成、稼働開始。
- 平成30年2月 埼玉工場と埼玉第二工場が食品安全マネジメントシステム「FSSC22000」の認証を取得。

### 3 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社7社及び関連会社1社を連結対象会社として構成されており、おつまみを中心とした食料品全般にわたる食品製造販売事業及び不動産賃貸事業を主な内容として事業活動を展開しております。

当社及び当社の関係会社の当該事業における位置付け及びセグメントとの関連は、概ね次の事業の系統図のとおりであります。

なお、セグメントと同一の区分であります。





#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱なとりデリカ	東京都北区	10,000	惣菜類の製造 および販売	100.0	当社が商品の一部仕入れて販売しております。 なお、当社の建物を貸与しております。 役員の兼任…2名
㈱上野なとり	東京都台東区	10,000	食料品および 海産物の販売	100.0	当社から商品を全量仕入れて販売しております。 なお、当社の建物を貸与しております。 役員の兼任…該当なし
㈱全珍	広島県呉市	50,000	食料品の製造 および販売	100.0	当社が商品の一部仕入れて販売しております。 なお、当社の建物を貸与しております。 役員の兼任…1名
㈱好好飲茶	東京都北区	10,000	食料品の販売	100.0	当社が商品の一部仕入れて販売しております。 なお、当社の建物を貸与しております。 役員の兼任…4名
メイホク食品㈱	北海道北斗市	50,000	食料品の製造	100.0	当社が原材料を無償支給し製造した商品を当社が 販売しております。 役員の兼任…1名
㈱函館なとり	北海道北斗市	10,000	食料品の製造	100.0	当社が原材料を無償支給し製造した商品を当社が 販売しております。 役員の兼任…1名
名旺商事㈱	東京都北区	20,000	包装材料の 販売	100.0	当社が包装材料を仕入れております。 なお、当社の建物を貸与しております。 役員の兼任…1名
(持分法適用関連会社) 南京名紅旺食品有限公司	中国南京市	15,000 千米ドル	食料品の製造 および販売	25.0	当社のおつまみ製造技術を活用したおつまみ食品 の製造販売をしております。 役員の兼任…1名

- (注) 1. 特定子会社に該当する会社はありません。  
2. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。  
3. 各連結子会社は、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合がそれぞれ100分の10以下であるため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称		従業員数(名)
食品製造販売事業	生産部門	431 〔433〕
	営業部門	304 〔129〕
	管理部門	100 〔15〕
	計	835 〔577〕
不動産賃貸事業	計	1 〔-〕
合計		836 〔577〕

(注) 従業員数は就業人員数(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時従業員数は年間の平均雇用人員を〔〕内に外数で記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
586 〔232〕	39.0	16.4	5,045,811

セグメントの名称		従業員数(名)
食品製造販売事業	生産部門	242 〔111〕
	営業部門	258 〔110〕
	管理部門	85 〔11〕
	計	585 〔232〕
不動産賃貸事業	計	1 〔-〕
合計		586 〔232〕

(注) 1. 従業員数は就業人員数(当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む。)であり、臨時従業員数は年間の平均雇用人員を〔〕内に外数で記載しております。  
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

該当事項はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

当社グループの経営理念は「自由闊達にして公正で節度ある企業活動により、食文化の創造と発展を通して、顧客満足・株主還元・社会貢献の実現を図り、社会的に価値ある企業として、この会社に係わるすべての人が誇りを持てる会社を目指す」であります。

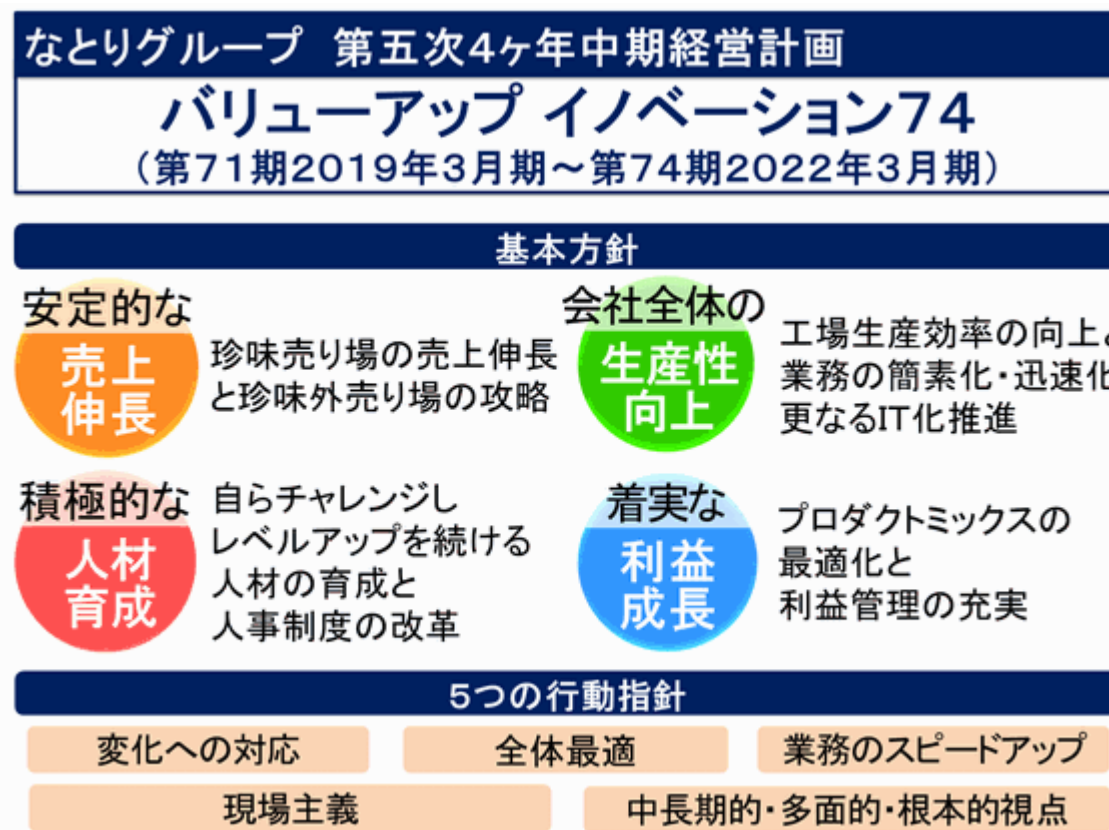
この経営理念のもと、「素材の風味を活かし、生産・流通・販売において温度帯にとらわれず、手軽に食べられ、様々な食シーンにマッチする、楽しさの演出に欠かせないおつまみをお客様にお届けします。」をミッションとし、「ひとつまみの幸せ。」を企業メッセージとして、「おつまみ」事業の維持・拡大及び収益力の強化に努めております。

当社グループは取り巻く環境の変化に柔軟に対応しつつ、更なる企業価値の向上を目指し、第71期（2019年3月期）から第74期（2022年3月期）までを対象期間とする4ヶ年中期経営計画「バリューアップ イノベーション74」をスタートさせました。

当社グループの事業領域“おつまみ”を取り巻く環境は、おつまみのボーダレス化、人口減少・少子高齢化による国内市場の縮小、国産するめいか原料の記録的な不漁をはじめ、天候不順や世界的な需要の増加等による原材料価格高騰と調達の不安定さを背景に、企業間の生存競争が激しさを増しています。

なとりグループは、厳しい環境下にあります。今後も挑戦と革新を続け、5つの行動指針に基づき、次に掲げる基本方針を実行し、更なるイノベーションによって、おつまみの真のNo.1企業を目指してまいります。

<中期経営計画「バリューアップ イノベーション74」の骨子>



### 2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 原材料、資材価格の変動及び主要調達先の経済状況

当社は食品の原材料・資材として、いかなどの水産品、チーズなどの酪農品、牛肉などの畜産品、梅・ナッツ類・茎レタスなどの農産品、あるいは包装材料など幅広く使用しております。これらについては、自然環境や生産地の状況により調達量、調達コストなど変動することが予想されます。当社といたしましては、特定の原材料、仕入先、生産品に多く依存することを避け、適切な情報を収集して在庫管理などの対応を行っておりますが、予想を超えた事態が発生した場合、当社グループの経営成績、財政状態等に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 食料品・食品原材料に対する不測の事態など

食品業界においては、鳥インフルエンザなど食料品・食品原材料に影響を与える問題が発生しております。また、仕入原材料に違法な添加物が含まれるなどの食品を取り巻く不祥事などにより、当社の販売、仕入などでも予期しえない事態が起こることもありえます。当社といたしましては、食品の安全性を経営上の最重要課題のひとつと認識し、従来よりトレーサビリティの推進、仕入先への指導・多様化、的確な業務処理の徹底などにより、リスクの極小化に努めております。しかしながら当社の想定あるいは会社としての対応を超えた事態が発生した場合、当社グループの経営成績、財政状態等に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 震災、テロに伴う不測の事態など

震災の発生、及び震災に伴う原発事故の影響等による当事業所の損壊や、物流網の遅滞、原材料の調達不足、電力の使用制限による工場の生産能力及び生産性の低下、放射能汚染地域の拡大や、汚染水や放射能汚染に対する風評被害の発生、サプライチェーンの寸断により、当社の仕入、生産、販売において予期しえない事態が起こることもありえます。当社といたしましては、仕入先の分散や、放射能検査を実施するなど、震災に伴うリスクを極小化するよう努めますが、テロを含めて会社としての対応を超えた事態が発生した場合、当社グループの経営成績、財政状態等に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 為替相場変動や海外との関わりなど

当社原材料のうち、海外に依存しているものは全体の約6割あります。特に為替変動の影響を受けるものは全体の約4割です。為替リスクを極小化するよう努めておりますが、そのリスクは当社に帰属いたします。また、中国国内における生産販売を行っている合弁企業にも投資を行っております。従いまして、為替相場が変動した場合、あるいは投資先の状況により、当社グループの経営成績、財政状態等に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 商品の欠陥・品質クレームの発生

当社グループは食品の製造・販売を主たる事業としております。全社員が食品会社に従事していることを認識し、製造環境を整え、原材料を仕入れ、食品を製造し、販売を行っております。

近年、食品業界においては、食品表示問題、有害物質の混入など、食品の品質や安全性が疑われる問題が発生しております。当社グループとしては、食品安全マネジメントシステムに関する国際規格FSSC22000を取得するなど常にお客様に信頼される安全・安心な商品を提供するために原料仕入から生産現場、店頭に並ぶまでの衛生管理や履歴管理などを徹底し、意図的な異物等の混入を防ぐために細心の注意を払っておりますが、万が一商品の欠陥等が発生した場合、当社グループの経営成績、財政状態等に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 食品業界などに対する法的規制などの導入・変更

当社及びグループ企業の一部は食品製造販売会社であり、食品表示法、食品衛生法、製造物責任法、容器包装リサイクル法、農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律、不当景品類及び不正表示防止法、工場設備に関する諸法律などの制約を受けます。これらの法律あるいは新たに当社グループの事業に係る法律が制定された場合には、当社グループの経営成績、財政状態等に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 商品開発の成否及び風評被害などによる既存商品・ブランドの劣化

おつまみ業界におきましては、競争がさらに激しくなっており既存品のみではシェア・売上低下は避けられない状況にあります。このような状況に対処すべく、新商品の発売、既存品のリニューアルなどでシェアを維持・拡大しながら売上の伸張を図っております。しかしながら、新商品開発の成否、あるいは予期せぬ風評被害など既存商品・ブランドの劣化などによっては、当社グループの経営成績、財政状態等に影響を及ぼす可能性があります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### ① 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における国内経済は、企業収益や雇用環境の改善がみられる一方で、個人消費は力強さを欠く状況で推移し、さらに貿易摩擦への不安や、米国株式市場の下落に端を発した円高の進行など引き続き先行きに不透明感が広がっております。

食品業界では、お客様の嗜好の多様化により多くの新製品が投入されていますが、商品のライフサイクルが短くなっていることから、各企業ともその対応に追われています。おつまみ市場も例外ではなく、さらにボーダレス化も進んでいることから、厳しい環境が続いております。

この様な状況の中、当社グループは、第67期（平成27年3月期）から第70期（平成30年3月期）までを対象期間とする4ヶ年中期経営計画「バリューイノベーション70」の最終年度として、ビジョンである「お客様に信頼されるブランド価値の向上」を目指し、5つの戦略である「①国内事業の拡大と海外マーケットへの挑戦」「②新たなおつまみ需要の創造」「③着実な成長投資と高収益体質への変革」「④事業活動のサイクルを円滑化するロジクスと情報システムの構築」「⑤成長意欲に満ちあふれた社風の醸成と人材育成」に全社一丸となって取り組んできました。

売上面においては、顧客志向を原点に、新製品の導入と市場定着を積極的に進め、各エリアの嗜好に合った製品の重点投入や販売促進等に引き続き取り組み増収となりました。しかし、利益面においては、前連結会計年度の下半期以降、記録的な不漁が続く国産するめいかの状況が更に悪化したことに加え、梅の不作等もあり、製品の規格変更などの諸施策を講じたものの、大幅に利益を減少させることになりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、454億81百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益は12億96百万円（同35.0%減）、経常利益は12億89百万円（同36.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は8億17百万円（同39.2%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

##### （食品製造販売事業）

売上高を製品群別に分類しますと、水産加工製品は、いか製品が減収となったものの、巾着タイプのチーズかまぼこや、茎わかめ、スティックタイプの揚物「うまいか」などの売上を伸ばしたことにより増収となりました。畜肉加工製品は、「3種のサラミ リッチセレクション」や、18本入りの「ペンシルカルパス」などのドライソーセージ製品が引き続き好調に推移したことと、「THEおつまみBEEF 厚切ビーフジャーキー」や、「燻製ポークジャーキー」などのジャーキー製品も売上に貢献したことで増収となりました。酪農加工製品は、チーズ製品が全体的に伸ばしたことや、新製品の「チーズスティック」などが奏功し、増収となりました。農産加工製品は、健康志向の高まりにより、食塩無添加のナッツ製品が売上を伸ばし、増収となりました。素材菓子製品は、酸味をマイルドにした「甘ずっぱいカリカリ梅 種ぬき」などの梅製品が好調に推移し、増収となりました。チルド製品は、一部大手チェーンにおいてフードパック製品の導入が進んだことと、チルドチーズ製品が売上を伸ばしたことで、増収となりました。その他製品は、新製品の「磯貝 だし醤油焼き」などのレトルト製品と、「おつまみセレクション」などのアソート製品が売上を伸ばし増収となりました。

以上の結果、食品製造販売事業の売上高は451億76百万円（同4.9%増）、営業利益は11億円（同39.0%減）となりました。

##### （不動産賃貸事業）

売上高は3億5百万円（同0.4%増）、営業利益は1億96百万円（同3.0%増）となりました。

財政状態は、次のとおりであります。

当連結会計年度末の連結総資産は389億83百万円（前連結会計年度末比25億51百万円増）となりました。

資産の部では、埼玉第二工場稼働に伴うリース資産、受取手形及び売掛金が増加したこと等により、総資産が増加いたしました。

負債の部では、支払手形及び買掛金、埼玉第二工場関連のリース債務が増加したこと等により、負債合計は196億90百万円（同17億55百万円増）、純資産の部では利益剰余金が増加したこと等により、純資産合計が192億93百万円（同7億96百万円増）となりました。

なお、自己資本比率は前連結会計年度末比1.3ポイント減少の49.5%となっております。

## ② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ3億30百万円増加し、36億44百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、38億30百万円の収入（前年同期は5億49百万円の収入）となりました。主に、税金等調整前当期純利益が12億86百万円、減価償却費が13億44百万円、当連結会計年度末日が金融機関の休日であった影響に伴い、仕入債務の増加が14億62百万円あったこと等によるものです。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、27億10百万円の支出（前年同期は28億80百万円の支出）となりました。主に、埼玉第二工場の建設や工場における生産設備の導入等、有形固定資産の取得による支出が26億42百万円あったこと等によるものです。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、7億89百万円の支出（前年同期は22億99百万円の収入）となりました。主に、ファイナンス・リース債務の返済による支出が6億75百万円、配当金の支払額が2億39百万円あったこと等によるものです。

## ③ 生産、受注及び販売の実績

### a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		生産高(千円)	前年同期比(%)
食品製造販売事業	水産加工製品	15,445,050	106.3
	畜肉加工製品	6,207,546	111.8
	酪農加工製品	5,247,385	106.1
	農産加工製品	525,364	68.7
	素材菓子製品	2,025,652	123.3
	チルド製品	348,506	169.5
	その他製品	1,623,864	115.5
	計	31,423,372	108.2
合計		31,423,372	108.2

- (注) 1. 金額は、実際原価によるものであります。  
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 3. 不動産賃貸事業においては、該当事項はありません。

b. 受注状況

当社グループ（当社及び連結子会社）は、受注予測による見込生産を行っているため、該当事項はありません。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		販売高(千円)	前年同期比(%)
食品製造販売事業	水産加工製品	19,325,810	101.5
	畜肉加工製品	8,282,129	109.0
	酪農加工製品	8,347,915	102.1
	農産加工製品	1,664,996	132.3
	素材菓子製品	2,207,198	107.0
	チルド製品	834,734	149.3
	その他製品	4,513,290	103.3
	計	45,176,074	104.9
不動産賃貸事業	計	305,689	100.4
合計		45,481,764	104.9

(注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
三菱食品株式会社	6,634,412	15.3	7,195,139	15.8

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

① 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づいて作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、その作成の基礎となる会計記録に適切に記録していない取引はありません。また、引当金の計上にあたっては、合理的にその金額を見積り、算出しております。従いまして、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を正しく表示しております。

② 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの当連結会計年度の経営成績等は、次のとおりであります。

売上面においては、顧客志向を原点に、新製品の導入と市場定着を積極的に進め、各エリアの嗜好に合った製品の重点投入や販売促進等に引き続き取り組み増収となりました。しかし、利益面においては、前年度の下半期以降、記録的な不漁が続く国産するめいかの状況が更に悪化したことに加え、梅の不作等もあり、製品の規格変更などの諸施策を講じたものの、大幅に利益を減少させることになりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、454億81百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益は12億96百万円（同35.0%減）、経常利益は12億89百万円（同36.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は8億17百万円（同39.2%減）となりました。

当社グループの成績に重要な影響を与える要因は、次のとおりであります。

現在の当社グループを取り巻く環境は、「少子高齢化を背景とした珍味顧客の高齢化や低年齢層の減少」「消費者ニーズの多様化による業種業態を超えた食品売場のボーダレス化」など、需要構造が徐々に変わってきております。これに対して、当社グループといたしましては、新たな発想による新しいおつまみの開発やおつまみ加工技術を活用し、水産加工製品、畜肉加工製品、酪農加工製品、素材菓子製品を中心に、チルド製品などの開発も積極的に行い、新しい需要を創造し、成熟型社会に対応した企業基盤の確立に取り組んでおります。

当面の課題としては、原材料高などであり、代替原材料への切替などの対策を検討しておりますが、更なる値上げなどが発生し、当社グループの企業努力の限界を超えた場合、企業収益を圧迫することがあります。

また、食の安全を確保するための法令改正や指導が行われた場合、追加設備投資あるいは費用などにより財政状態及び経営成績に重要な影響が生じる場合もあります。これらにつきましては、「2 事業等のリスク」に記載いたしましたのでご参照ください。

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、次のとおりであります。

重要な資本的支出につきましては、埼玉工場をはじめとする各工場の増産設備や製造ラインの合理化、老朽化設備の入替など、総額30億円の設備投資を予定しております。

なお、設備投資に係る資金につきましては、自己資金や借入金などによる調達を予定しております。

経営方針・経営戦略につきましては、「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載いたしましたのでご参照ください。

経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標について、次期の連結業績見通しとしては、売上高464億円（前年同期比2.0%増）、営業利益15億10百万円（同16.5%増）、経常利益15億円（同16.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益10億円（同22.4%増）を見込んでおります。



#### 4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 5 【研究開発活動】

当社グループの研究開発部門は、なとり「新おつまみ宣言」の実現に向けて、素材の風味を活かし、手軽に食べられ、楽しさを演出する独創性のあるおつまみの創出と既存品の改良を継続的に行い、「おつまみの真のNo.1企業」を目指しております。そのために新技術を開発・導入し、日々変化するマーケット動向を見据え製品開発のファストサイクル化に取り組みながら、お客様にとって安全・安心でおいしい食品の開発を推進しております。

##### (1) 研究の目的及び主要課題

当社グループは、食品総合ラボラトリーを中心として、安全・安心で高品質な製品を生み出すべくマーケティング部門、生産部門、営業部門等の関係部署との密なる連携により研究開発活動を展開しております。

研究開発の主要課題は、味・香り・食感・色など、素材が持つ本来の良さを最大限に引き出すこと、お客様の嗜好の変化や健康意識の高まりに対応すべく、従来には無かった新素材・新技術・新価値・新サービスを提供する製品の開発及び改良であります。

「水産加工製品」「畜肉加工製品」「酪農加工製品」「素材菓子製品」を集中4ジャンルと位置付け、開発資源を集中的に投入し、各製品群の更なるアイテム充実を目標として、様々なバリエーションを展開する中で、お客様のニーズを的確に把握した開発を進めております。「農産加工製品」「チルド製品」「その他製品」に関しても、当社グループを支える事業の柱とすべく製品導入に努めております。

さらに基盤研究の推進にも注力し、当社グループで取り扱っている様々な原材料や加工・保存方法に関する研究・調査を進め、データ蓄積や新技術開発を目指しております。また、外部機関との共同研究にも取り組み、更なる高度な技術開発を目指しております。基盤研究から生み出されたシーズの新製品開発への導入も強力に進めております。

なお、当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費の総額は543,995千円であります。(すべて食品製造販売事業に係るものであります。)

##### (2) 研究開発体制

研究開発活動の中心的役割を担う食品総合ラボラトリーは、「製品開発」「製品評価」「基盤研究」の3つの機能を持ち活動しております。

「製品開発」については、水産、畜肉、酪農、農産の各種原材料の特性を活かし、独自の加工技術を駆使したスピーディーな新製品開発に特化しております。

「製品評価」については、理化学・微生物検査を駆使し、製品・原材料の安全性確保を目的に活動しております。

「基盤研究」については、新たな加工・保存・分析技術の探求や今後取り組むべき課題の抽出等、製品開発につながる新技術・新素材等の探索を目的に活動しております。

##### (3) 研究開発活動

研究開発成果は、以下のとおりであります。

###### ① 製品開発

お客様の嗜好が日々変化している中、新たな水産物や肉類、果実などの新素材を使用した製品を開発しております。さらに、健康意識への高まりに対応するため、糖質や塩分を抑えた製品、乳酸菌や鉄分、食物繊維などの栄養素を多く含む素材を使用した製品や、家飲みの増加に対応した個食タイプの製品を開発し発売しております。

また、期間限定のフレーバー製品やコラボ製品の開発も積極的に行っており、幅広い食シーンへの対応を図っております。さらに、マーケットリサーチ結果を活用しつつ、新たな食シーンの創造や女性向け等ターゲットを絞った新素材、新技術、新価値、新サービスを提供する製品開発を進めております。

## ② 製品評価

理化学・微生物検査に加えて高度分析機器を駆使し、製品・原材料の安全性確認、賞味期間の設定、衛生管理への提言等を行っております。併せて安全・安心に関わる新しい検査・分析技術の導入も積極的に進め、当社グループ工場への水平展開も進めております。

製品の味については、官能検査による味の評価のほかに、味覚センサーを導入して、味の視覚化に取り組んでおります。味覚センサーによる分析により、時間の経過による味の変化や他社品との味の違いなどが明確になり、お客様の視点に立った研究開発を進めております。

## ③ 基盤研究

基盤研究については、各種原材料素材に関して加工・保存時の品質変化や栄養成分の調査・研究を進め、更なるおいしさや健康価値を持つ製品開発のための基盤データ収集を行っております。

いか製品を中心とした咀嚼性の研究も継続して進めており、食育活動の一環として研究結果を当社ホームページ等に掲載しております。また、子供達を対象にいか・チーズについての理解を深めるためのセミナーを開催し、併せて咀嚼の啓蒙も行っております。

また、マーケットニーズや属性別の嗜好性に基づいた新製品開発を推進するために、マーケティング部門と連携して社内外のモニター制度を活用した新製品の受容性評価・グループインタビュー等を実施しております。さらに、マーケットニーズや嗜好性の変化に対応するために、基盤研究や新技術の探索に注力し、その中から採用した新技術については特許出願を視野に入れた活動を行っております。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において、当社グループは、生産設備、研究開発用設備及び情報関連機器を中心に総額34億11百万円の設備投資を実施いたしました。

食品製造販売事業については、総額34億11百万円の設備投資を行いました。このうち、生産・品質管理体制及び研究開発体制の充実・強化を目的として、当社埼玉工場(埼玉県久喜市)、埼玉第二工場(埼玉県久喜市)他の生産設備増設等に27億54百万円の設備投資を行いました。これにより、生産能力の増強及び安全・安心のための品質向上並びに食品総合ラボラトリー(東京都北区)を中心とした製品開発力の向上を図りました。

なお、重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械及び 装置	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	リース資産	合計	
本社 (東京都北区)	食品製造 販売事業	その他 設備	602,431	226	119,398	450,613 (1)	30,141	1,202,812	187 [18]
埼玉工場他(2工場) (埼玉県久喜市)	食品製造 販売事業	生産設備	5,034,451	57,396	53,392	1,422,007 (29)	2,038,289	8,605,537	219 [109]
首都圏配送センター他(3センター) (埼玉県加須市他)	食品製造 販売事業	物流設備	486,193	7,109	994	1,028,632 (10)	440	1,523,370	48 [40]
東京営業所他(28営業所) (東京都北区他)	食品製造 販売事業	販売設備	101,673	0	807	184,430 (2)	—	286,911	111 [60]
食品総合ラボラトリー (東京都北区)	食品製造 販売事業	食品総合 研究所	322,071	204	853	101,730 (2)	9,336	434,196	20 [5]
賃貸用住宅他(5カ所) (東京都北区他)	不動産 賃貸事業	賃貸 不動産	1,853,282	5,112	3,992	1,003,257 (3) [0]	—	2,865,645	1 [—]
豊島ファクトリー & オフィス (東京都北区)	食品製造 販売事業	その他 設備	441,431	0	0	136,909 (2)	—	578,340	— [—]
社宅(7カ所) (東京都北区他)	食品製造 販売事業	その他 設備	561,088	343	3,330	330,612 (1) [0]	—	895,374	— [—]

##### (2) 国内子会社

平成30年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械及び 装置	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	リース資産	合計	
㈱全珍	本社 (広島県 呉市)	食品製造 販売事業	生産設備	37,273	54,216	6,510	263,802 (4) [1]	273,337	635,140	65 [50]
メイホク食品㈱	本社 (北海道 北斗市)	食品製造 販売事業	生産設備	518,028	50,957	8,173	190,929 (27) [7]	369,970	1,138,059	73 [153]
㈱函館なとり	本社 (北海道 北斗市)	食品製造 販売事業	生産設備	439,020	30,692	5,424	248,480 (13)	415,270	1,138,888	60 [113]

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 土地及び建物の一部を賃借しており、年間賃借料は67,398千円であります。

なお、賃借している土地の面積については、[ ] で外書きしております。

3. 従業員数の [ ] は、臨時従業員数の年間の平均雇用人員を外書きしております。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、中期経営計画の生産計画、物流計画、利益に対する投資割合等を総合的に勘案して計画しております。

重要な設備の新設、増設等の計画は、以下のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
㈱なとり 埼玉工場 他	埼玉県 久喜市 他	食品製造販売事 業	増産設備・製造ライ ンの合理化・老朽化 設備の入替他	3,000	—	自己資金 借入金	平成30年 4月	平成31年 3月	生産能力増 強、品質及 び生産性の 向上

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

##### ② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年6月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,032,209	15,032,209	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100 株であります。
計	15,032,209	15,032,209	—	—

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### ② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### ③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成22年4月1日～ 平成23年3月31日 (注)	△500,000	15,032,209	—	1,975,125	—	2,290,923

(注) 自己株式の消却による減少であります。

## (5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	31	19	127	54	10	29,614	29,855	—
所有株式数(単元)	—	28,621	783	19,224	3,834	10	97,816	150,288	3,409
所有株式数の割合(%)	—	19.04	0.52	12.79	2.55	0.01	65.09	100	—

(注) 1. 自己株式2,449,414株は、「個人その他」に24,494単元、「単元未満株式の状況」に14株含まれておりません。

2. 上記「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が4単元含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
名 取 三 郎	東京都北区	674	5.36
名 取 雄一郎	東京都練馬区	544	4.33
なとり取引先持株会	東京都北区王子5丁目5番1号	539	4.29
なとり社員持株会	東京都北区王子5丁目5番1号	434	3.45
有限会社エヌアンドエフ	東京都北区東十条5丁目16番13号	315	2.50
有限会社フジミ屋興産	東京都練馬区豊玉上2丁目13番2号	315	2.50
有限会社ティーエヌコーポレーション	東京都北区神谷1丁目9番6号	315	2.50
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	264	2.10
株式会社商工組合中央金庫	東京都中央区八重洲2丁目10番17号	260	2.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	249	1.98
計	—	3,912	31.09

(注) 1. 上記のほか、当社所有の自己株式が2,449千株あります。

2. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日付で株式会社三菱UFJ銀行に商号変更しております。

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,449,400	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,579,400	125,794	—
単元未満株式	普通株式 3,409	—	—
発行済株式総数	15,032,209	—	—
総株主の議決権	—	125,794	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。

また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数が4個含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が14株含まれております。

## ② 【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社なとり	東京都北区王子5丁目5番1号	2,449,400	—	2,449,400	16.29
計	—	2,449,400	—	2,449,400	16.29

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	100	184,768
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	2,449,414	—	2,449,414	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。



### 3 【配当政策】

当社は、株主の皆様への適切かつ安定した利益還元を行うことを重要政策のひとつとして位置づけております。また、食品メーカーとして生産性の向上、事業規模の拡大と企業体質強化に取り組み、そのための生産設備、研究開発、情報システム等の整備・拡充の設備投資を中長期的に行うための内部留保を確保しながら、業績動向及び1株当たり当期純利益の推移等を総合的に勘案し、株主の皆様への利益還元を行うことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当、期末配当ともに取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、適切かつ安定的な利益還元とする基本方針のもと、普通配当18円(うち中間配当9円)に設立70周年記念配当2円(うち中間配当1円)を加えて、1株当たり20円の配当(うち中間配当10円)を実施することとしております。

内部留保資金の用途につきましては、事業規模の拡大と企業体質強化に向けた生産設備の増強、情報システムの強化等に有効活用していくこととしております。

なお、当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年11月6日 取締役会決議	125,828	10.0
平成30年5月9日 取締役会決議	125,827	10.0

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	1,170	1,650	1,838	1,968	2,178
最低(円)	860	1,000	1,330	1,446	1,764

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	2,075	2,075	2,075	2,065	2,039	2,011
最低(円)	1,974	1,977	2,001	2,020	1,840	1,891

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 5 【役員 の 状 況】

男性12名 女性1名 (役員のうち女性の比率7.7%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役	会長兼社長	名 取 三 郎	昭和23年1月22日生	昭和48年7月 当社入社 昭和48年7月 取締役就任 昭和56年7月 常務取締役就任 平成4年7月 専務取締役就任 平成9年2月 営業本部長 平成13年6月 取締役副社長就任 平成17年1月 代表取締役副社長就任 平成17年3月 代表取締役社長就任 平成24年6月 代表取締役会長兼社長就任 (現任)	(注)3	674
代表取締役	副社長 品質保証室・ お客様相談室・ 情報システム部 担当	名 取 雄 一 郎	昭和36年6月8日生	昭和62年2月 当社入社 平成6年4月 資材部長 平成7年6月 取締役就任 平成10年10月 市場関連本部長 平成13年1月 生産本部長 平成14年1月 原資材調達本部長 平成17年3月 代表取締役副社長就任(現任) 平成23年6月 経営監査部長 平成26年12月 品質保証室・お客様相談室担当 (現任) 平成28年3月 情報システム部担当(現任)	(注)3	544
取締役	常務執行役員 生産本部長	出 島 信 臣	昭和28年9月25日生	昭和54年4月 当社入社 平成8年3月 埼玉工場長 平成14年6月 執行役員埼玉統轄工場長 平成16年5月 生産本部長 平成17年6月 取締役就任(現任) 平成18年2月 生産・原資材本部長 平成19年8月 生産本部長(現任) 平成20年6月 常務執行役員(現任)	(注)3	29
取締役	執行役員 営業本部長	山 形 正	昭和32年1月8日生	昭和59年4月 当社入社 平成13年9月 名古屋支店長 平成16年5月 営業本部副本部長 平成16年6月 執行役員(現任) 平成22年9月 営業本部長(現任) 平成24年6月 取締役就任(現任)	(注)3	2
取締役	執行役員 マーケティング ・R&D開発 本部長	西 村 豊	昭和29年7月29日生	昭和55年4月 味の素株式会社入社 平成16年4月 同社食品カンパニー食品研究所 企画情報室長 平成18年6月 当社出向、執行役員 食品総合ラボラトリー所長 平成22年12月 大東食研株式会社出向 同社執行役員研究所長 平成26年7月 当社入社、執行役員(現任) マーケティング・R&D開発 本部長(現任) 平成27年6月 取締役就任(現任)	(注)3	1
取締役	執行役員 営業本部 副本部長	名 取 光 一 郎	昭和56年10月3日生	平成16年4月 当社入社 平成18年8月 埼玉工場 平成20年5月 埼玉営業所長 平成26年3月 営業企画部副本部長 平成28年3月 営業本部副本部長(現任)兼営業 企画部長 平成28年7月 執行役員(現任) 平成30年6月 取締役就任(現任)	(注)3	16

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	執行役員 総務人事本部長	北見 弘之	昭和27年10月9日生	昭和51年4月 商工組合中央金庫入庫 平成15年3月 同金庫市場営業部長 平成16年3月 当社出向、財務部長 平成16年5月 当社経営企画部長 平成16年6月 当社取締役執行役員就任(現任) 平成18年2月 当社人事部長 平成19年11月 当社入社 平成23年4月 総務人事本部長(現任)	(注)3	6
取締役	—	岡崎 正憲	昭和24年6月17日生	平成5年3月 公認会計士登録 平成6年6月 三優監査法人社員(役員)登録 平成13年10月 公認会計士岡崎正憲事務所開業 (現職) 平成14年6月 当社監査役就任 平成15年6月 当社取締役就任(現任) 株式会社インフォメーション・ ディベロプメント社外監査役 (現職)	(注)1 (注)3	—
取締役	—	中尾 誠男	昭和18年2月16日生	昭和40年4月 三菱油化株式会社入社 平成8年7月 三菱化学エンジニアリング株式 会社取締役 平成11年6月 同社常務取締役 平成15年6月 同社専務取締役 平成16年6月 同社常勤監査役 平成18年6月 当社監査役就任 平成19年6月 当社取締役就任(現任) 平成26年6月 株式会社サンテック社外取締役 (現職)	(注)1 (注)3	2
取締役	—	竹内 富貴子	昭和26年10月8日生	昭和53年2月 株式会社カロニック・ダイエッ ト・スタジオ設立 代表取締役(現職) 平成7年4月 女子栄養大学短期大学部講師 (現職) 香川栄養専門学校講師 東京YMCA国際ホテル専門学 校講師 平成13年4月 NPO法人良い食材を伝える会 理事(現職) 平成27年6月 当社取締役就任(現任)	(注)1 (注)3	—
常勤監査役	—	小嶋 利光	昭和22年2月1日生	平成14年3月 当社入社 平成14年6月 取締役総務部長就任 平成16年6月 常務執行役員 平成21年6月 経営監査部長 平成23年6月 常勤監査役就任(現任)	(注)4	1
監査役	—	大野 二郎	昭和22年2月16日生	昭和56年10月 株式会社三菱総合研究所入社 平成8年10月 同社開発技術研究センター長 平成11年11月 ハウスプラス住宅保証株式会社 常務取締役 平成14年4月 跡見学園女子大学マネジメント 学部教授 平成19年6月 当社監査役就任(現任) 平成26年4月 跡見学園女子大学マネジメント 学部長 平成29年6月 跡見学園女子大学名誉教授 (現職)	(注)2 (注)4	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役	—	蒲生 邦道	昭和19年10月23日生	昭和46年4月 東洋エンジニアリング株式会社 入社 平成12年6月 同社取締役 平成15年6月 同社代表取締役CFO 平成16年6月 同社監査役 平成18年6月 同社常任監査役 平成21年10月 公益社団法人日本監査役協会 常任理事 平成23年11月 同協会相談員・講師(現職) 平成27年6月 当社監査役就任(現任)	(注)2 (注)4	0
計						1,278

- (注) 1. 取締役 岡崎正憲、中尾誠男及び竹内富貴子は、社外取締役であります。
2. 監査役 大野二郎及び蒲生邦道は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、平成30年6月28日開催の定時株主総会終結の時から1年間であります。
4. 監査役の任期は、平成27年6月26日開催の定時株主総会終結の時から4年間であります。
5. 取締役 名取光一郎は、代表取締役会長兼社長 名取三郎の長男であります。
6. 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しております。会長兼社長、副社長の他に執行役員は13名であり、取締役を兼務する常務執行役員1名、執行役員4名の他、執行役員として生産本部副本部長 鎌田達夫、原材料調達本部長 今関利夫、総務人事本部副本部長 永井邦佳、名紅旺事業推進室長 阿部覚、経営企画部長兼経理部長 安宅茂、営業本部副本部長 柴田英彦、物流本部副本部長 名取敏男、生産本部副本部長 町田勝臣の8名により構成されております。
7. 当社は、監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。取締役 北見弘之を補欠監査役に選任しており、補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了する時までであります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

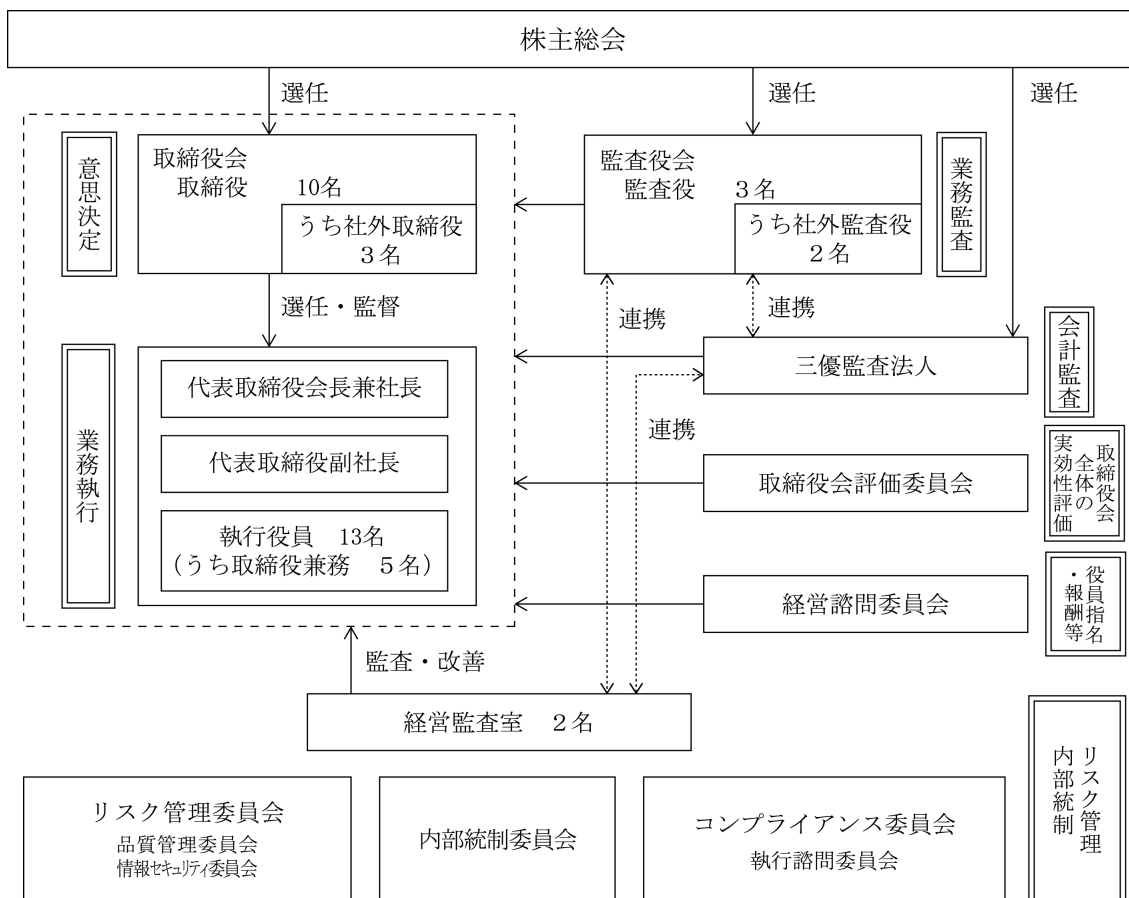
#### ① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、「自由闊達にして公正で節度ある企業活動により、食文化の創造と発展を通して、顧客満足・株主還元・社会貢献の実現を図り、社会的に価値ある企業として、この会社に係るすべての人が誇りを持つる会社を目指す」という経営理念のもと、お客様、お取引先、株主、社会、社員等のすべてのステークホルダーの皆様から「社会的に価値ある企業」として認めていただけるよう、積極的に情報開示・説明責任を果たし、継続的に企業価値を高めていくことが、当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方であり、経営上の最も重要な施策のひとつとして位置づけております。

#### ② 企業統治の体制

##### イ. 企業統治の体制の概要

当社の企業統治（コーポレート・ガバナンス）の体制は、以下のとおりであります。



(注) 人数は平成30年6月29日現在

当社は、会社の主要な機関として、「株主総会」のほか、「取締役会」及び「監査役会」を設置しております。

平成15年6月から「社外取締役」を招聘しており、提出日（平成30年6月29日）現在、取締役10名のうち社外取締役3名、うち女性1名であります。また、監査役は3名のうち社外監査役2名であり、5名の社外役員が夫々独立した視点から経営の監督・監視を行っております。

取締役会は、取締役、監査役の全員で構成され、月1回以上開催、経営に関する重要事項を決定しております。

監査役会は、監査役全員で構成され、原則、月1回開催、監査に関する重要事項を協議し決定しております。

また、平成13年6月から執行役員制度を導入しており、業務執行体制の強化を図っております。執行役員会は、社外取締役を含む取締役、社外監査役を含む監査役及び執行役員と主要な部門長で構成され、月1回開催、経営に関する重要事項の協議やグループ内の部門間連携及びその調整を行っております。

さらに、ガバナンスを維持・強化するための体制として、代表取締役副社長を委員長とし、取締役を中心に構成される「リスク管理委員会」「内部統制委員会」「コンプライアンス委員会」の3つの委員会を設置しております。

「リスク管理委員会」においては、当社グループを取り巻く様々なリスクの抽出、評価から対応方針や施策の検討を指揮しております。「内部統制委員会」においては、当社グループが事業活動を行う上での内部統制に関する方針の決定、組織横断的に亘る内部統制に関する問題点の有無を確認し、施策を実施しております。「コンプライアンス委員会」においては、当社グループ全体のコンプライアンスに関する方針策定や施策の実施を行っております。

また、監査役設置会社ではありますが、平成16年5月より社外役員を主体とした「経営諮問委員会」を設置しております。役員指名・報酬及び経営全般についての諮問を行っており、経営の透明性・健全性を高めております。

さらに、平成28年5月より「取締役会評価委員会」を設置し、取締役会全体の実効性について分析・評価を行うことなどにより、その機能の向上を図っております。

#### ロ. 現状の企業統治体制を採用する理由

当社は、業務執行において、取締役会による監督機能と、監査役による取締役の職務執行監査機能を持つ、監査役設置会社制度を採用しております。継続的な企業価値の向上を実現し、株主価値の観点から経営を監督する仕組みを確保し、マネジメントの強化とコーポレート・ガバナンスの確立に努めております。

具体的には、

1. 意思決定の迅速化と責任体制の明確化（執行役員制度の導入、経営組織における権限の明確化等）
2. 経営の透明性・健全性の強化（経営諮問委員会の設置等）
3. 監督・監査機能の強化（独立性の高い社外取締役・社外監査役の招聘）

を機能させるため、監査役設置会社の体制をとりながら、指名委員会等設置会社にある優れた特徴も取り入れた体制としております。

#### ハ. 内部統制システムの整備の状況及びその他企業統治に関する整備運用の状況

##### <内部統制システムの整備の状況>

当社は、会社法に基づき「内部統制システム構築の基本方針」を以下のとおり定めております。

当社は、当社グループ一体として全てのステークホルダーの期待に応えるため、経営の透明性確保と法令遵守の上で、有効的・効率的な職務の実行により、経営品質の向上と企業価値の増大による持続的成長を目指し、内部統制システムのより一層の整備・運用に努めております。

##### a. 取締役・使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

(a) 役員体制の現状については、牽制機能の発揮等を期待して、取締役に当社と利害関係を有しない専門家である社外取締役が就任し、監査役には法律・会計等の専門家である社外監査役が就任している。このようなガバナンス体制の下に、当社および当社子会社（以下、当社グループという。）の業務全般に亘りコンプライアンスを基本とした執行を推進する。

(b) 総務部は、企業行動規範、役員・社員行動規範の見直し、コンプライアンス推進計画の策定、諸研修の実施等当社グループ全体のコンプライアンスを所管する。

(c) コンプライアンス委員会は、当社グループの各部門にコンプライアンスオフィサーを設置し、行動規範遵守に関する全社方針の策定・見直し、違反事例発生時の原因究明、再発防止策の決定等、コンプライアンス体制の維持向上を推進する。

(d) 当社グループの財務報告の信頼性を確保するための体制を維持する。

(e) 反社会的勢力との関係を一切持たない。これを役員・社員行動規範において、当社グループ全社員に徹底する。

(f) 報告相談窓口（ヘルプライン）を設置し、情報の確保を図ると共に、当社グループの役員・社員の相談および通報に適切に対応する。

##### b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

(a) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理については、取締役会で承認された文書取扱規定、文書保存規定、並びにコンピュータ管理規定等に従い、文書又は電磁的に記録し保存する。

(b) 取締役および監査役は、これらの文書等を必要に応じ閲覧できるものとする。

c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

(a) 総務部は、「リスク管理に関する基本原則」を常に見直し、その対象であるリスクおよびコンプライアンスを、当社グループ全社レベルにて所管する。

(b) 当社グループ各社、各部門所管業務に付随するビジネス・リスクに関しては、その管理は各々の担当部門が行う。

(c) リスク管理委員会は、リスク対応能力の向上を図るために、当社グループ各社で管理するビジネス・リスクを取り纏め、リスクの重要性、緊急性に応じた管理・対応を行う。

(d) リスク管理委員会の小委員会として品質管理委員会および情報セキュリティ委員会を設置する。品質管理委員会は、当社グループ全社および協力会社の品質に関するリスク管理を行う。また、情報セキュリティ委員会は、情報資産の適正な管理体制を構築・維持し、継続的改善を行う。

(e) (a)および(b)のモニタリングは経営監査室が担当する。

d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

(a) 毎月1回の定例取締役会および必要に応じ随時の取締役会を開催し、重要事項の決定および取締役の職務執行状況の監督を行う。

(b) 各部門の定量、定性両面からのコミットメントをベースとした予算・実績管理を強化すると共に、適時に取締役会に報告する。

e. 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

(a) 経営理念、行動規範等は当社グループ共通であり、グループ一体として業務の適正確保に努める。

(b) 当社子会社の運営管理については、関係会社管理規定において各子会社の当社所轄部門を定め、子会社各社の役員を兼任する当社の役員を中心に各社の運営を監督する。

(c) 当社子会社各社の業務の執行の状況について、定期的に当社取締役会等に報告する。

(d) 内部統制についてその有用性を自ら評価し、不備があれば迅速に是正する。

(e) 経営監査室は、当社グループ全社の業務監査を担当する。

f. 監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項、当該使用人に対する指示の実効性に関する事項

(a) 監査役又は監査役会（以下、監査役という。）の職務の補助の主担当部署は、経営監査室とする。

(b) 監査役は、経営監査室員以外の使用人を必要に応じ、監査業務を補助する者として指名することができる。

(c) 監査役の求めに応じ指名された使用人は、監査役の指揮の下に監査業務に必要な職務を行う。

g. 前項の使用人の取締役からの独立性に関する事項

(a) 前項の監査役の指揮の下に監査業務に必要な職務を行う社員は、その職務に関して、監査役以外の者の指揮命令は受けないものとする。（取締役以下その使用人の属する組織の上長等の指揮命令を受けない。）

h. 当社グループの取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制、報告したことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

(a) 当社グループ各社の取締役および使用人は、監査役の求めに応じ該当する事項について、監査役に報告を行うものとする。

(b) 取締役および使用人は、上記のほか、当社グループにおいてコンプライアンス違反事項等を認識した場合、速やかに監査役に報告を行うものとする。監査役は意見を述べるとともに改善策の策定を求めることができる。

(c) 当社グループの企業行動規範、役員・社員行動規範、報告相談窓口（ヘルプライン）において、内部通報を行ったことにより処遇面で不利益を受けたり報復行為を受けたりすることが無いことを明記している。

(d) 経営監査室は、当社グループで実施した業務監査結果について監査役に随時報告を行い、また適時に連絡会を開催し意見交換を行う。

i. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

(a) 監査役は、重要な意思決定の過程および業務の執行状況を把握するため、取締役会や執行役員会のほか必要に応じ、当社グループ内の全ての会議に出席できるものとする。

(b) 監査役は、稟議書や社内会議議事録を閲覧し必要に応じ、取締役又は使用人にその説明を求めることができる。

(c) 監査役は、監査の実施にあたり独自の意見形成を行うため必要に応じ、弁護士・公認会計士・税理士等の専門家に意見を求めることができ、監査に要した費用、債務の処理等の一切を会社に求めることができる。会社は、真に監査役の監査の実施に必要でない認められるときを除き、これを拒否することはできない。

(d) 監査役は、代表取締役社長、会計監査人と適時に意見交換を行う。

#### <内部統制システムの運用状況>

当社の取締役会は、取締役10名（うち、社外取締役3名）で構成されており、その取締役会には取締役のほか監査役3名（うち、社外監査役2名）が出席して、各業務執行取締役から業務執行状況の報告が行われるとともに、重要事項の審議・決議を行っております。議場において社外取締役は、独立した立場から、決議に加わるとともに、経営の監視・監督を行っており、各監査役についても同様に経営の監査を行っております。

また、社外取締役及び社外監査役は取締役会のほか、執行役員会等の社内の重要会議に出席し、さらに常勤監査役は取締役から業務執行状況について直接聴取を行う等、業務執行の状況やコンプライアンスに関する問題点を日常レベルで監視する体制を整備しており、経営監視機能の強化及び向上を図っております。

#### <その他企業統治に関する整備運用の状況>

内部統制を支える組織として、内部監査部門である経営監査室を設置しております。経営監査室は、当社グループ全社に亘る業務執行ラインにおける内部統制状況のモニタリングを実施し、モニタリングにより抽出された業務執行に内在するリスクについて分析評価を行い、そのリスクの統制状況を確認し、その統制がリスクを十分低減できるものになっていることの検証を行っております。これらリスクの低減と併せ、業務の見える化、文書化を進め、継続的に改善することにより業務の有効性・効率性を高めております。モニタリングを通して抽出される問題でその影響が全社に亘るもの、重要性の高いものに対しては、内部統制委員会がその内容を精査、確認し調整する役割を担っております。

内部統制システム構築の基礎となるコンプライアンス経営については「企業行動規範」「役員・社員行動規範」「行動規範の手引き」を制定しており、コンプライアンス委員会が当社グループ全社・全部署に対し研修・講習会を実施し、全従業員へ遵法意識が浸透されていることを確認しております。

なお、当社グループは、内部通報制度として社内と第三者機関である社外に報告相談窓口（ヘルプライン）を設置しております。当然に、内部通報者の秘密は厳重に守り、通報をすることにより処遇面で不利益を受けたり、報復行為を受けることはありません。この報告相談窓口（ヘルプライン）は、当社グループのみならず、外部協力会社の役員・社員に至るまで適用範囲を拡げ、情報の収集・運営を行っております。

また、リスク管理については特に注力しております。「リスク管理に関する基本原則」を制定し、これを地震等自然災害、火災等いわゆる純粋リスク対応の基本法として位置付けております。リスク管理委員会は、この基本法の下、不測の事態に対する迅速かつ的確な対応を行うべくBCP体制を確立し、実際に災害等が発生した場合を想定した訓練を実施しております。また国内外で発生する流行病やカントリーリスク、各部門業務執行に付随するビジネス・リスクを取り纏め、その重要性・緊急性を評価し、その評価に応じた管理対応を行っております。特に食品会社として、冬季を中心にインフルエンザやノロウイルスへの水際対策のため、工場への入場時には検温と都度の手洗い殺菌を徹底することやフードディフェンスについても強化を図っております。

さらに、リスク管理委員会の小委員会として「品質管理委員会」「情報セキュリティ委員会」を設置しております。品質管理委員会では協力会社を含む当社グループが製造する製品の安全・安心を確保するために「なとり品質保証憲章」「同マニュアル」に則った品質管理が行われているかを監視し管理しております。情報セキュリティ委員会では「情報セキュリティ基本方針」を制定し、全従業員に対し情報セキュリティに関する教育を行い、継続的に情報資産のたな卸、情報資産の評価と適正な管理体制の構築・維持を行っております。

財務報告の内部統制制度につきましても、「財務報告に係る内部統制の整備・運用および評価の基本方針書」を制定し、この基本方針書に基づき毎期会計監査人と協議を行いながら実施しております。内部統制を通じ、業務の有効性・効率性をより追求しております。適用10年目であります平成30年3月期につきましても、開示すべき重要な不備は無く、財務報告に係る内部統制は有効であると判断しております。



### ③ 内部監査及び監査役監査の状況

当社の監査役は、社内重要会議への出席のほか、稟議書を含む重要書類の閲覧、経営幹部へのヒアリングなどを通じて業務執行に対する監査を行っております。また、会計監査人に対し、夫々の監査の質の向上及び効率化を目的として、随時監査結果について情報交換と補完を行い、情報の共有化を図っております。

当社の内部監査部門である経営監査室は、他のどの部署からも干渉を受けない専任部署であり、業務活動の適法性・合理性の観点から、当社グループの各部門の業務監査を実施し、その結果について、経営者、社外取締役及び監査役等に報告を行っております。監査役は、経営監査室と情報の共有化を図り、必要に応じて連携して対処する体制を確立しております。

なお、社外監査役の蒲生邦道氏は、東洋エンジニアリング株式会社において相当の期間、経理・財務部門を所管、CFOを務めており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

### ④ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は3名、社外監査役は2名であります。

独立役員として指定している社外取締役の岡崎正憲氏は、公認会計士としての豊富な経験と専門的知識を有しており、その幅広く高度な経営についての経験等に基づき、社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと考えております。

なお、同氏は平成13年9月まで当社の会計監査人である三優監査法人に勤務しておりましたが、退社して10年以上経過しております。

独立役員として指定している社外取締役の中尾誠男氏は、長年にわたり三菱化学エンジニアリング株式会社の経営に携わり、その幅広く高度な経営についての知識、経験等に基づき、社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと考えております。

独立役員として指定している社外取締役の竹内富貴子氏は、管理栄養士、ダイエットクリエイターとして長年にわたり実践的な料理の研究活動に携わり、その食についての豊富な経験と専門知識等に基づき、社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと考えております。

なお、同氏は平成26年7月から当社のアドバイザーとして、食育や女性の活躍推進についてのご意見をいただいておりますが、社外取締役就任時に契約を終了しております。

独立役員として指定している社外監査役の大野二郎氏は、長年にわたり跡見学園女子大学マネジメント学部教授を務め、幅広い知識を有しており、その経験に基づき、経営を監視するなど社外監査役としての職務を適切に遂行していただけるものと考えております。

独立役員として指定している社外監査役の蒲生邦道氏は、長年にわたり東洋エンジニアリング株式会社の経営に携わり、また、公益社団法人日本監査役協会常任理事を務める等、幅広い知識を有しており、その経験に基づき、経営を監視するなど社外監査役としての職務を適切に遂行していただけるものと考えております。

なお、岡崎正憲氏、中尾誠男氏、竹内富貴子氏及び蒲生邦道氏は、経営諮問委員会の委員として、社外の視点からの助言を頂いております。

以上の通り、当社では社外取締役3名及び社外監査役2名の計5名を、一般株主と利益相反を生ずるおそれはないと判断し、独立役員として指定し東京証券取引所に届けております。

会社法上の要件に加え、社外取締役または社外監査役に必要とされる経験・見識等の有無などを総合的に考慮したうえで、当社の経営から独立して監督または監査できるものを社外役員として選任しております。なお、当期における社外取締役は、東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準を加えて選任しております。

また、社外監査役に対しては、経営監査室（内部監査・内部統制部門）と社内情報等の共有化を図り、連携して対処する体制を確立しております。

⑤ 役員の報酬等

イ. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	163	108	—	17	38	7
監査役 (社外監査役を除く。)	5	5	—	—	—	1
社外役員	25	25	—	—	—	6

ロ. 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ. 使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員の員数(名)	内容
37	4	使用人としての給与であります。

ニ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

(イ) 取締役の報酬等

取締役の報酬等は、月額報酬、賞与及び退職慰労金により構成されております。

月額報酬は、職務内容等により個人別に支給額を決定しております。

賞与は、経営成績等を勘案し、個人別に支給額を決定しております。

報酬及び賞与は、株主総会の決議による年額報酬限度額以内の範囲で、社外役員を主体として構成される「経営諮問委員会」に諮問し、取締役会において決定しております。

退職慰労金は、「役員退職慰労金及び弔慰金規定」等に基づき手続きを行い、株主総会の承認を得て支給しております。

(ロ) 監査役の報酬等

監査役の報酬は、株主総会の決議による年額報酬限度額以内の範囲で、監査役の協議により決定しております。

⑥ 株式の保有状況

イ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 27銘柄

貸借対照表計上額の合計額 1,276百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)セブン&アイ・ホールディングス	59,979	261	取引先との関係強化のため
ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)	21,941	145	取引先との関係強化のため
(株)マミーマート	65,682	129	取引先との関係強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	165,000	115	取引先との関係強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	353,490	72	取引先との関係強化のため
住友商事(株)	39,100	58	取引先との関係強化のため
(株)ライフコーポレーション	14,305	46	取引先との関係強化のため
(株)良品計画	1,768	43	取引先との関係強化のため
イオン(株)	24,843	40	取引先との関係強化のため
(株)ヤマナカ	40,354	28	取引先との関係強化のため
エイチ・ツー・オー リテイリング(株)	15,383	27	取引先との関係強化のため
(株)アークス	9,288	24	取引先との関係強化のため
(株)Olympicグループ	30,575	18	取引先との関係強化のため
アルビス(株)	4,946	17	取引先との関係強化のため
スギホールディングス(株)	3,224	16	取引先との関係強化のため
(株)東武ストア	5,025	15	取引先との関係強化のため
(株)ベルク	2,200	9	取引先との関係強化のため
ヤマエ久野(株)	7,914	9	取引先との関係強化のため
三菱食品(株)	1,000	3	取引先との関係強化のため
(株)エコス	1,000	1	取引先との関係強化のため
(株)マルイチ産商	1,075	1	取引先との関係強化のため
亀田製菓(株)	100	0	業界の情報収集のため
カルビー(株)	100	0	業界の情報収集のため
六甲バター(株)	100	0	業界の情報収集のため

(注) (株)Olympicグループ、アルビス(株)、スギホールディングス(株)、(株)東武ストア、(株)ベルク、ヤマエ久野(株)、三菱食品(株)、(株)エコス、(株)マルイチ産商、亀田製菓(株)、カルビー(株)及び六甲バター(株)は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下の銘柄であります。

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)セブン&アイ・ホールディングス	62,039	283	取引先との関係強化のため
ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)	22,238	199	取引先との関係強化のため
(株)マミーマート	67,737	162	取引先との関係強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	165,000	115	取引先との関係強化のため
住友商事(株)	39,100	70	取引先との関係強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	353,490	67	取引先との関係強化のため
(株)良品計画	1,819	64	取引先との関係強化のため
イオン(株)	25,903	49	取引先との関係強化のため
(株)ライフコーポレーション	14,622	42	取引先との関係強化のため
(株)ヤマナカ	42,712	42	取引先との関係強化のため
エイチ・ツー・オー リテイリング(株)	16,219	31	取引先との関係強化のため
(株)アークス	9,583	24	取引先との関係強化のため
スギホールディングス(株)	3,224	18	取引先との関係強化のため
(株)Olympicグループ	33,213	18	取引先との関係強化のため
アルビス(株)	5,062	17	取引先との関係強化のため
(株)東武ストア	5,255	15	取引先との関係強化のため
(株)ベルク	2,200	13	取引先との関係強化のため
ヤマエ久野(株)	8,307	10	取引先との関係強化のため
三菱食品(株)	1,000	3	取引先との関係強化のため
(株)マルイチ産商	1,416	1	取引先との関係強化のため
(株)エコス	1,000	1	取引先との関係強化のため
亀田製菓(株)	100	0	業界の情報収集のため
カルビー(株)	100	0	業界の情報収集のため
六甲バター(株)	100	0	業界の情報収集のため

(注) スギホールディングス(株)、(株)Olympicグループ、アルビス(株)、(株)東武ストア、(株)ベルク、ヤマエ久野(株)、三菱食品(株)、(株)マルイチ産商、(株)エコス、亀田製菓(株)、カルビー(株)及び六甲バター(株)は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下の銘柄であります。

ハ、保有目的が純投資目的である投資株式  
該当事項はありません。

#### ⑦ 会計監査の状況

会計監査業務を執行した公認会計士の状況は、以下のとおりであります。

氏名	所属	継続監査年数
岩田 亘人	三優監査法人	5会計期間
河合 秀敏	三優監査法人	3会計期間

上記の公認会計士2名に加え、補助者は公認会計士6名とその他4名であり、合計12名が会計監査業務に携わっております。

当社監査役会は、会計監査人が職務上の義務に違反し、または、職務を怠り、若しくは会計監査人としてふさわしくない非行があるなど、当社の会計監査人であることにつき、当社にとって重大な支障があると判断した場合には、会社法第340条の規定により会計監査人を解任いたします。また、そのほか会計監査人が職務を適切に遂行することが困難であると認められる場合、または監査の適正性をより高めるために会計監査人の変更が妥当であると監査役会が判断した場合には、会計監査人の解任または不再任に関する議案を株主総会に提出いたします。

#### ⑧ 取締役の定数

当社は、取締役は12名以内とする旨を定款に定めております。

#### ⑨ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役は株主総会において選任する旨、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席してその議決権の過半数をもって行う旨及び取締役の選任決議については、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

#### ⑩ 取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令に定める限度額の範囲内でその責任を免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

#### ⑪ 責任限定契約の内容の概要

当社は、平成18年6月29日開催の第58回定時株主総会で定款を変更し、社外取締役及び社外監査役の責任限定契約に関する規定を設けております。

当該定款に基づき、当社が社外取締役及び社外監査役全員と締結した責任限定契約の内容の概要は、以下のとおりであります。

社外取締役及び社外監査役は、本契約締結後、その職務を行うにあたり善意でかつ重大なる過失がない場合は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として当社に対し損害賠償責任を負うものとします。

#### ⑫ 剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑬ 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑭ 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、資本効率の向上を図るとともに経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行することを目的とするものであります。

⑮ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	29	—	29	—
連結子会社	—	—	—	—
計	29	—	29	—

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

監査報酬は、監査計画等を勘案して決定しております。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、三優監査法人による監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下のとおり連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

- ① 会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入しております。
- ② 指定国際会計基準による適正な財務諸表等を作成するための社内規定、マニュアル、指針等の整備を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,626,924	3,937,275
受取手形及び売掛金	7,445,074	8,009,506
商品及び製品	1,053,447	1,071,509
仕掛品	758,043	653,852
原材料及び貯蔵品	3,375,686	3,273,138
繰延税金資産	231,090	212,201
その他	428,322	231,008
貸倒引当金	△1,106	-
流動資産合計	16,917,480	17,388,492
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※1 21,011,103	※1 21,576,426
減価償却累計額	△10,655,145	△11,174,594
建物及び構築物（純額）	10,355,958	10,401,831
機械及び装置	3,075,046	3,047,881
減価償却累計額	△2,824,342	△2,841,323
機械及び装置（純額）	250,704	206,557
車両運搬具	12,325	-
減価償却累計額	△12,227	-
車両運搬具（純額）	98	-
工具、器具及び備品	537,057	579,928
減価償却累計額	△349,077	△373,594
工具、器具及び備品（純額）	187,979	206,333
土地	※1 5,361,405	※1 5,690,670
リース資産	2,790,209	4,718,139
減価償却累計額	△1,236,544	△1,591,189
リース資産（純額）	1,553,665	3,126,950
有形固定資産合計	17,709,812	19,632,344
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	1,109,349	1,276,812
繰延税金資産	39,468	35,929
その他	※3 527,609	※3 464,824
貸倒引当金	△15,425	△15,425
投資その他の資産合計	1,661,001	1,762,141
固定資産合計	19,514,643	21,595,372
資産合計	36,432,123	38,983,864



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※4 4,216,051	※4 5,710,585
短期借入金	※1 1,855,000	※1 1,830,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 460,040	※1 524,120
リース債務	452,007	781,268
未払金	3,577,008	2,462,703
未払法人税等	408,245	164,064
賞与引当金	339,041	323,716
役員賞与引当金	33,000	17,000
その他	※4 290,491	※4 279,898
流動負債合計	11,630,886	12,093,357
固定負債		
長期借入金	※1 3,505,260	※1 3,590,920
リース債務	1,107,179	2,353,047
繰延税金負債	4,555	69,841
役員退職慰労引当金	667,454	705,704
退職給付に係る負債	947,204	803,345
資産除去債務	5,825	5,825
その他	66,142	68,042
固定負債合計	6,303,622	7,596,726
負債合計	17,934,508	19,690,084
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,975,125	1,975,125
資本剰余金	2,290,923	2,290,923
利益剰余金	16,050,479	16,628,675
自己株式	△2,095,811	△2,095,996
株主資本合計	18,220,716	18,798,727
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	312,796	411,575
為替換算調整勘定	84,074	90,372
退職給付に係る調整累計額	△119,972	△6,894
その他の包括利益累計額合計	276,898	495,053
純資産合計	18,497,614	19,293,780
負債純資産合計	36,432,123	38,983,864

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
売上高	43,364,945	45,481,764
売上原価	※1 30,386,132	※1 33,008,328
売上総利益	12,978,813	12,473,435
販売費及び一般管理費		
運賃	1,650,516	1,766,851
販売促進費	3,287,624	3,533,385
給料及び手当	2,478,120	2,415,050
賞与引当金繰入額	182,221	174,233
役員賞与引当金繰入額	33,000	17,000
退職給付費用	84,440	85,524
役員退職慰労引当金繰入額	38,375	38,250
貸倒引当金繰入額	△516	△1,106
その他	3,231,849	3,147,866
販売費及び一般管理費合計	※1 10,985,631	※1 11,177,055
営業利益	1,993,181	1,296,380
営業外収益		
受取利息	48	37
受取配当金	22,620	22,831
受取賃貸料	26,772	26,971
その他	40,755	43,547
営業外収益合計	90,196	93,388
営業外費用		
支払利息	20,286	22,997
賃貸費用	32,732	31,124
持分法による投資損失	4,099	45,887
その他	9,032	139
営業外費用合計	66,151	100,148
経常利益	2,017,227	1,289,621
特別利益		
投資有価証券売却益	3,285	-
特別利益合計	3,285	-
特別損失		
固定資産除却損	※2 941	※2 2,708
特別損失合計	941	2,708
税金等調整前当期純利益	2,019,571	1,286,912
法人税、住民税及び事業税	737,389	471,451
法人税等調整額	△61,344	△1,809
法人税等合計	676,045	469,641
当期純利益	1,343,526	817,270
親会社株主に帰属する当期純利益	1,343,526	817,270

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益	1,343,526	817,270
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	54,226	98,778
退職給付に係る調整額	10,736	113,078
持分法適用会社に対する持分相当額	△25,006	6,297
その他の包括利益合計	※1 39,956	※1 218,154
包括利益	1,383,482	1,035,424
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,383,482	1,035,424
非支配株主に係る包括利益	-	-

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,975,125	2,290,923	14,927,154	△2,095,739	17,097,463
当期変動額					
剰余金の配当			△220,201		△220,201
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,343,526		1,343,526
自己株式の取得				△71	△71
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	1,123,325	△71	1,123,253
当期末残高	1,975,125	2,290,923	16,050,479	△2,095,811	18,220,716

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	258,570	109,081	△130,709	236,942	17,334,405
当期変動額					
剰余金の配当					△220,201
親会社株主に帰属する 当期純利益					1,343,526
自己株式の取得					△71
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	54,226	△25,006	10,736	39,956	39,956
当期変動額合計	54,226	△25,006	10,736	39,956	1,163,209
当期末残高	312,796	84,074	△119,972	276,898	18,497,614

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,975,125	2,290,923	16,050,479	△2,095,811	18,220,716
当期変動額					
剰余金の配当			△239,074		△239,074
親会社株主に帰属する 当期純利益			817,270		817,270
自己株式の取得				△184	△184
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	578,196	△184	578,011
当期末残高	1,975,125	2,290,923	16,628,675	△2,095,996	18,798,727

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	312,796	84,074	△119,972	276,898	18,497,614
当期変動額					
剰余金の配当					△239,074
親会社株主に帰属する 当期純利益					817,270
自己株式の取得					△184
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	98,778	6,297	113,078	218,154	218,154
当期変動額合計	98,778	6,297	113,078	218,154	796,165
当期末残高	411,575	90,372	△6,894	495,053	19,293,780

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,019,571	1,286,912
減価償却費	943,606	1,344,732
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△516	△1,106
賞与引当金の増減額 (△は減少)	6,823	△15,324
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3,000	△16,000
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	38,375	38,250
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	25,382	19,078
受取利息及び受取配当金	△22,668	△22,869
支払利息	20,286	22,997
持分法による投資損益 (△は益)	4,099	45,887
投資有価証券売却損益 (△は益)	△3,285	-
固定資産除却損	941	2,708
売上債権の増減額 (△は増加)	△648,387	△564,432
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△753,473	188,675
仕入債務の増減額 (△は減少)	373,254	1,462,695
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△459,634	683,958
その他	△216,173	140,089
小計	1,325,200	4,616,252
利息及び配当金の受取額	22,683	22,869
利息の支払額	△20,589	△23,052
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△777,900	△785,610
営業活動によるキャッシュ・フロー	549,393	3,830,458
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 (△は増加)	△1	19,999
有形固定資産の取得による支出	△2,842,946	△2,642,844
投資有価証券の取得による支出	△31,509	△28,924
投資有価証券の売却による収入	12,534	-
その他	△18,396	△58,510
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,880,318	△2,710,279
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,000,000	△25,000
長期借入れによる収入	4,260,000	640,000
長期借入金の返済による支出	△294,700	△490,260
自己株式の取得による支出	△71	△184
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△444,788	△675,044
配当金の支払額	△220,545	△239,339
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,299,893	△789,828
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△31,031	330,350
現金及び現金同等物の期首残高	3,344,905	3,313,873
現金及び現金同等物の期末残高	※1 3,313,873	※1 3,644,224

## 【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数 7社

連結子会社は、(株)なとりデリカ・(株)上野なとり・(株)全珍・(株)好好飲茶・メイホク食品(株)・(株)函館なとり・名旺商事(株)の7社であります。

#### (2) 非連結子会社の数 4社

非連結子会社は、(株)CTF・(株)メイリョウ・(株)コーポレートアソシエイツ・(有)やまなの4社であります。

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法適用関連会社の数 1社

持分法適用関連会社は、南京名紅旺食品有限公司の1社であります。

#### (2) 持分法非適用非連結子会社の数 4社

持分法非適用非連結子会社は、(株)CTF・(株)メイリョウ・(株)コーポレートアソシエイツ・(有)やまなの4社であります。

(持分法を適用しない理由)

持分法非適用非連結子会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

##### ② たな卸資産

###### a. 商品・製品・仕掛品・原材料

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

###### b. 貯蔵品

最終仕入原価法によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。

建物及び構築物	7～50年
機械及び装置	5～12年
工具、器具及び備品	3～20年

② 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき、当連結会計年度に見合う分を計上しております。

③ 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき、当連結会計年度に見合う分を計上しております。

④ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

③ 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。



(5) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

外貨建金銭債権債務のうち為替予約を付すものについては振当処理によっております。また、外貨建予定取引の為替リスクのヘッジについては繰延ヘッジ処理によっております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約

ヘッジ対象…外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

③ ヘッジ方針

外貨建取引の為替相場の変動によるリスクを回避するために、為替予約取引について、実需の範囲内で行うこととしております。

④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額等を基礎にして判断しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3カ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(未適用の会計基準等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日)

(1) 概要

個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱いが見直され、また(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いの明確化が行われております。

(2) 適用予定日

平成31年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
建物	2,344,703千円	2,474,853千円
土地	2,232,583千円	2,232,583千円
計	4,577,286千円	4,707,436千円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	1,705,000千円	1,680,000千円
1年内返済予定の長期借入金	194,040千円	258,120千円
長期借入金	1,244,260千円	1,595,920千円
計	3,143,300千円	3,534,040千円

2 当座勘定貸越契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座勘定貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
当座勘定貸越極度額	1,600,000千円	1,600,000千円
借入実行残高	－千円	－千円
差引額	1,600,000千円	1,600,000千円

※3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
その他(株式)	41,300千円	41,300千円
その他(出資金)	259,726千円	220,136千円
計	301,027千円	261,437千円

※4 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、当連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
支払手形	－千円	90,718千円
その他(設備関係支払手形)	－千円	2,539千円

## (連結損益計算書関係)

※1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	526,047千円	543,995千円

※2 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	－千円	2,467千円
機械及び装置	467千円	236千円
車両運搬具	0千円	5千円
工具、器具及び備品	473千円	0千円
計	941千円	2,708千円

## (連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	81,422千円	138,442千円
組替調整額	△3,285千円	－千円
税効果調整前	78,136千円	138,442千円
税効果額	△23,909千円	△39,663千円
その他有価証券評価差額金	54,226千円	98,778千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	△11,751千円	134,541千円
組替調整額	27,221千円	28,396千円
税効果調整前	15,470千円	162,937千円
税効果額	△4,733千円	△49,858千円
退職給付に係る調整額	10,736千円	113,078千円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	△25,006千円	6,297千円
その他の包括利益合計	39,956千円	218,154千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	15,032,209	—	—	15,032,209

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,449,274	40	—	2,449,314

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加 40株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年5月9日 取締役会	普通株式	106,954	8.5	平成28年3月31日	平成28年6月30日
平成28年11月9日 取締役会	普通株式	113,246	9.0	平成28年9月30日	平成28年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年5月10日 取締役会	普通株式	利益剰余金	113,246	9.0	平成29年3月31日	平成29年6月30日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	15,032,209	—	—	15,032,209

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,449,314	100	—	2,449,414

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取りによる増加 100株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年5月10日 取締役会	普通株式	113,246	9.0	平成29年3月31日	平成29年6月30日
平成29年11月6日 取締役会	普通株式	125,828	10.0	平成29年9月30日	平成29年12月5日

(注) 平成29年11月6日取締役会決議による1株当たり配当額には、設立70周年記念配当1円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年5月9日 取締役会	普通株式	利益剰余金	125,827	10.0	平成30年3月31日	平成30年6月29日

(注) 1株当たり配当額には、設立70周年記念配当1円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	3,626,924千円	3,937,275千円
預入期間が3カ月を超える定期預金	△313,050千円	△293,050千円
現金及び現金同等物	3,313,873千円	3,644,224千円

2 重要な非資金取引の内容

新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る 資産及び債務の額	595,770千円	2,250,172千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として生産設備(機械及び装置)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	2,280千円	2,280千円
1年超	3,115千円	835千円
合計	5,395千円	3,115千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については原則として預貯金等を中心として元本が保証されるものを対象としております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。また、短期的な資金調達及び長期にわたる投資資金は銀行借入により調達する方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は主として業務上の関係を有する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。支払手形及び買掛金、未払金並びに設備関係支払手形は、ほぼ4カ月以内の支払期日であります。また、デリバティブ取引は、外貨建金銭債権債務等に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジ有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (5) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社グループは、受取手形及び売掛金などの営業債権について、販売管理規定に沿って主要な取引先の状況を定期的に把握し、取引先の期日ごとに残高を管理し、回収懸念の早期把握などによりリスク軽減を図っております。また、投資有価証券については、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。デリバティブ取引については、取引先を信用度の高い金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。また、デリバティブ取引の執行・管理は内規に従って担当部署が決裁担当者の承認を得て行い、決裁担当者に報告しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（(注2)をご参照ください。）。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	3,626,924	3,626,924	—
(2)受取手形及び売掛金	7,445,074	7,445,074	—
(3)投資有価証券			
その他有価証券	1,086,901	1,086,901	—
資産計	12,158,899	12,158,899	—
(1)支払手形及び買掛金	4,216,051	4,216,051	—
(2)短期借入金	1,855,000	1,855,000	—
(3)未払金	3,577,008	3,577,008	—
(4)未払法人税等	408,245	408,245	—
(5)長期借入金	3,965,300	3,872,588	△92,711
(6)リース債務	1,559,187	1,546,678	△12,509
負債計	15,580,792	15,475,572	△105,220

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	3,937,275	3,937,275	—
(2)受取手形及び売掛金	8,009,506	8,009,506	—
(3)投資有価証券			
その他有価証券	1,254,364	1,254,364	—
資産計	13,201,145	13,201,145	—
(1)支払手形及び買掛金	5,710,585	5,710,585	—
(2)短期借入金	1,830,000	1,830,000	—
(3)未払金	2,462,703	2,462,703	—
(4)未払法人税等	164,064	164,064	—
(5)長期借入金	4,115,040	4,036,873	△78,166
(6)リース債務	3,134,315	3,097,951	△36,363
負債計	17,416,708	17,302,178	△114,530

(注)1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

### 資産

#### (1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### (3)投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

### 負債

#### (1)支払手形及び買掛金、(2)短期借入金、(3)未払金、(4)未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### (5)長期借入金、(6)リース債務

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。



2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非上場株式	22,448	22,448
非上場関係会社株式	41,300	41,300
非上場関係会社出資金	259,726	220,136

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難であると認められることから、「(3)投資有価証券」には含まれておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
(1)現金及び預金	3,626,924	—	—	—
(2)受取手形及び売掛金	7,445,074	—	—	—
合計	11,071,998	—	—	—

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
(1)現金及び預金	3,937,275	—	—	—
(2)受取手形及び売掛金	8,009,506	—	—	—
合計	11,946,781	—	—	—

4. 短期借入金、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
(1)短期借入金	1,855,000	—	—	—	—	—
(2)長期借入金	460,040	460,040	460,040	460,040	460,040	1,665,100
(3)リース債務	452,007	389,261	312,363	221,787	132,791	50,976
合計	2,767,047	849,301	772,403	681,827	592,831	1,716,076

当連結会計年度(平成30年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
(1)短期借入金	1,830,000	—	—	—	—	—
(2)長期借入金	524,120	524,120	524,120	524,120	524,120	1,494,440
(3)リース債務	781,268	703,459	609,190	487,470	395,235	157,691
合計	3,135,388	1,227,579	1,133,310	1,011,590	919,355	1,652,131

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	1,039,184	624,570	414,613
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	—	—	—
小計	1,039,184	624,570	414,613
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式	47,717	55,172	△7,455
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	—	—	—
小計	47,717	55,172	△7,455
合計	1,086,901	679,742	407,158

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額22,448千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記表中の「その他有価証券」には含まれておりません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	1,235,603	683,691	551,912
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	—	—	—
小計	1,235,603	683,691	551,912
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式	18,760	25,072	△6,311
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	—	—	—
小計	18,760	25,072	△6,311
合計	1,254,364	708,763	545,600

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額22,448千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記表中の「その他有価証券」には含まれておりません。

## 2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1) 株式	12,534	3,285	—
(2) 債券	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	12,534	3,285	—

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

## 3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度及び当連結会計年度において、減損処理を行った有価証券はありません。

なお、減損処理にあつては、時価のある有価証券については、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には減損処理を行い、30%以上50%未満下落した場合には回復可能性等を検討した上で減損処理を行っております。時価のない有価証券については、期末における実質価額が取得原価に比べ50%以上下落した場合には減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

確定給付制度である退職一時金制度（すべて非積立型制度であります。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く）

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	918,750千円	928,607千円
勤務費用	26,943千円	28,323千円
利息費用	3,435千円	4,064千円
数理計算上の差異の発生額	11,751千円	△134,541千円
退職給付の支払額	△32,272千円	△40,664千円
退職給付債務の期末残高	928,607千円	785,790千円

(2) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	18,541千円	18,596千円
退職給付費用	1,510千円	△424千円
退職給付の支払額	△1,455千円	△618千円
退職給付に係る負債の期末残高	18,596千円	17,554千円

(3) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	947,204千円	803,345千円
連結貸借対照表に計上された負債の額	947,204千円	803,345千円
退職給付に係る負債	947,204千円	803,345千円
連結貸借対照表に計上された負債の額	947,204千円	803,345千円

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	26,943千円	28,323千円
利息費用	3,435千円	4,064千円
数理計算上の差異の費用処理額	27,221千円	28,396千円
簡便法で計算した退職給付費用	1,510千円	△424千円
その他	603千円	576千円
確定給付制度に係る退職給付費用	59,714千円	60,937千円

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
数理計算上の差異	15,470千円	162,937千円
合計	15,470千円	162,937千円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識数理計算上の差異	172,871千円	9,933千円
合計	172,871千円	9,933千円

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
割引率	0.4%	0.4%
予想昇給率	1.8%	1.8%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度87,235千円、当連結会計年度88,045千円であります。

（ストック・オプション等関係）

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

## (1) 流動の部

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	29,114千円	15,809千円
賞与引当金	104,763千円	99,057千円
棚卸資産評価損	29,391千円	13,522千円
未実現損益(棚卸資産)	37,379千円	61,316千円
その他	37,333千円	30,740千円
繰延税金資産小計	237,981千円	220,446千円
評価性引当額	△6,875千円	△8,202千円
繰延税金資産合計	231,106千円	212,244千円
繰延税金負債(流動)との相殺	△16千円	△42千円
繰延税金資産の純額	231,090千円	212,201千円
繰延税金負債		
未収還付事業税	13千円	42千円
連結相殺消去に伴う貸倒引当金調整額	2千円	－千円
繰延税金負債合計	16千円	42千円
繰延税金資産(流動)との相殺	△16千円	△42千円
繰延税金負債の純額	－千円	－千円

## (2) 固定の部

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
固定資産評価差額	87,228千円	87,228千円
退職給付に係る負債	289,877千円	245,823千円
役員退職慰労引当金	204,241千円	215,945千円
投資有価証券評価損	37,112千円	37,112千円
未実現損益(固定資産)	14,956千円	14,956千円
繰越欠損金	62,600千円	56,402千円
その他	22,051千円	22,766千円
繰延税金資産小計	718,068千円	680,235千円
評価性引当額	△216,540千円	△210,965千円
繰延税金資産合計	501,527千円	469,270千円
繰延税金負債(固定)との相殺	△462,058千円	△433,340千円
繰延税金資産の純額	39,468千円	35,929千円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	372,252千円	369,157千円
その他有価証券評価差額金	94,361千円	134,025千円
繰延税金負債合計	466,614千円	503,182千円
繰延税金資産(固定)との相殺	△462,058千円	△433,340千円
繰延税金負債の純額	4,555千円	69,841千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.9%	30.9%
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1%	1.3%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.1%	△0.1%
住民税均等割等	1.7%	2.7%
評価性引当額	0.2%	0.5%
試験研究費の特別控除	△0.9%	△1.4%
生産性向上設備等の特別控除	△0.8%	－%
持分法による投資損益	0.1%	1.1%
その他	1.3%	1.5%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.5%	36.5%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

資産除去債務については、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

資産除去債務については、重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社では、東京都その他の地域において、賃貸用の住宅等(土地を含む)を有しております。

前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する損益は、賃貸利益190,261千円(営業利益に計上)であります。

当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する損益は、賃貸利益196,011千円(営業利益に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

		前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	3,051,415	2,961,681
	期中増減額	△89,733	△58,036
	期末残高	2,961,681	2,903,645
期末時価		3,220,703	3,220,150

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な減少額は減価償却費80,430千円であります。当連結会計年度の主な減少額は減価償却費76,227千円であります。

3. 期末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

4. 賃貸用住宅のうち、社宅部分は除いております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、当社において各グループ会社の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品・サービス別のセグメントから構成されており、「食品製造販売事業」及び「不動産賃貸事業」の2つを報告セグメントとしております。

「食品製造販売事業」は、水産加工製品、畜肉加工製品、酪農加工製品、農産加工製品、素材菓子製品、チルド製品及びその他製品を製造販売しております。「不動産賃貸事業」は、不動産の賃貸をしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。



3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	食品製造販売事業	不動産賃貸事業			
売上高					
外部顧客への売上高	43,060,591	304,354	43,364,945	—	43,364,945
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	43,060,591	304,354	43,364,945	—	43,364,945
セグメント利益	1,802,920	190,261	1,993,181	—	1,993,181
セグメント資産	29,764,452	2,961,681	32,726,133	3,705,990	36,432,123
セグメント負債	17,934,508	—	17,934,508	—	17,934,508
その他の項目					
減価償却費	863,175	80,430	943,606	—	943,606
持分法適用会社への 投資額	256,726	—	256,726	—	256,726
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	5,106,698	1,780	5,108,478	△10,627	5,097,850

(注) 1. 調整額の内容は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに帰属しない全社資産であり、主に当社の現金及び預金、投資有価証券等であります。
  - (2) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間の振替であります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	食品製造販売事業	不動産賃貸事業			
売上高					
外部顧客への売上高	45,176,074	305,689	45,481,764	—	45,481,764
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	45,176,074	305,689	45,481,764	—	45,481,764
セグメント利益	1,100,369	196,011	1,296,380	—	1,296,380
セグメント資産	31,947,687	2,903,645	34,851,332	4,132,531	38,983,864
セグメント負債	19,690,084	—	19,690,084	—	19,690,084
その他の項目					
減価償却費	1,268,504	76,227	1,344,732	—	1,344,732
持分法適用会社への 投資額	217,136	—	217,136	—	217,136
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	3,333,208	18,191	3,351,400	△18,083	3,333,316

(注) 1. 調整額の内容は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに帰属しない全社資産であり、主に当社の現金及び預金、投資有価証券等であります。
  - (2) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間の振替であります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

**【関連情報】**

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱食品株式会社	6,634,412	食品製造販売事業

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱食品株式会社	7,195,139	食品製造販売事業

**【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】**

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

**【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】**

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	1,470.06円	1,533.35円
1株当たり当期純利益	106.77円	64.95円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	18,497,614	19,293,780
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	18,497,614	19,293,780
普通株式の発行済株式数(株)	15,032,209	15,032,209
普通株式の自己株式数(株)	2,449,314	2,449,414
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	12,582,895	12,582,795

3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,343,526	817,270
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,343,526	817,270
普通株式の期中平均株式数(株)	12,582,920	12,582,827

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,855,000	1,830,000	0.4	—
1年以内に返済予定の長期借入金	460,040	524,120	0.5	—
1年以内に返済予定のリース債務	452,007	781,268	0.4	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,505,260	3,590,920	0.5	平成31年4月15日～ 平成39年10月29日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,107,179	2,353,047	0.4	平成31年4月30日～ 平成36年2月29日
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	7,379,487	9,079,355	—	—

(注) 1. 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は、以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	524,120	524,120	524,120	524,120
リース債務	703,459	609,190	487,470	395,235

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	11,066,355	22,026,966	35,169,763	45,481,764
税金等調整前四半期(当期)純利益(千円)	457,258	616,389	1,511,963	1,286,912
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(千円)	297,982	385,630	1,005,879	817,270
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	23.68	30.65	79.94	64.95

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失(△)(円)	23.68	6.97	49.29	△14.99

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,461,566	2,750,257
受取手形	143,143	115,378
売掛金	※1 6,948,136	※1 7,523,973
商品及び製品	1,115,505	1,141,445
仕掛品	739,377	702,838
原材料及び貯蔵品	3,320,583	3,214,832
前渡金	11,643	7,213
前払費用	88,560	88,282
繰延税金資産	135,073	105,462
その他	※1 360,246	※1 161,128
貸倒引当金	△200	-
流動資産合計	15,323,638	15,810,813
固定資産		
有形固定資産		
建物	※2 9,257,688	※2 9,284,549
構築物	130,593	121,837
機械及び装置	96,079	70,454
車両運搬具	90	-
工具、器具及び備品	166,634	182,891
土地	※2 4,658,193	※2 4,987,458
リース資産	603,070	2,078,208
有形固定資産合計	14,912,349	16,725,400
無形固定資産		
借地権	70,073	70,073
ソフトウェア	44,973	109,162
その他	21,062	14,724
無形固定資産合計	136,109	193,960
投資その他の資産		
投資有価証券	1,109,349	1,276,812
関係会社株式	578,843	578,843
出資金	61,810	61,810
関係会社出資金	313,515	313,515
破産更生債権等	11,389	11,389
長期前払費用	20,361	9,046
その他	90,654	87,567
貸倒引当金	△10,846	△10,846
投資その他の資産合計	2,175,075	2,328,137
固定資産合計	17,223,535	19,247,498
資産合計	32,547,173	35,058,312

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	※4 59,558	※4 122,543
買掛金	※1 4,157,751	※1 5,565,770
短期借入金	※2 1,800,000	※2 1,800,000
1年内返済予定の長期借入金	※2 460,040	※2 524,120
リース債務	192,926	478,441
未払金	※1 3,522,004	※1 2,443,042
未払費用	111,468	107,442
未払法人税等	215,360	37,298
預り金	76,338	60,376
前受収益	5,294	5,352
賞与引当金	244,500	228,954
役員賞与引当金	33,000	17,000
その他	※4 4,731	※4 6,167
流動負債合計	10,882,975	11,396,508
固定負債		
長期借入金	※2 3,505,260	※2 3,590,920
リース債務	410,143	1,602,903
繰延税金負債	51,705	72,343
退職給付引当金	690,165	704,330
役員退職慰労引当金	665,642	703,642
資産除去債務	3,138	3,138
その他	65,142	67,042
固定負債合計	5,391,197	6,744,320
負債合計	16,274,172	18,140,829
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,975,125	1,975,125
資本剰余金		
資本準備金	2,290,923	2,290,923
資本剰余金合計	2,290,923	2,290,923
利益剰余金		
利益準備金	39,780	39,780
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	844,161	837,238
別途積立金	8,720,000	8,720,000
繰越利益剰余金	4,186,025	4,738,836
利益剰余金合計	13,789,967	14,335,855
自己株式	△2,095,811	△2,095,996
株主資本合計	15,960,204	16,505,907
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	312,796	411,575
評価・換算差額等合計	312,796	411,575
純資産合計	16,273,001	16,917,482
負債純資産合計	32,547,173	35,058,312

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
売上高	※2 41,011,155	※2 43,249,554
売上原価	※2 29,962,961	※2 32,665,343
売上総利益	11,048,193	10,584,210
販売費及び一般管理費	※1 9,797,251	※1 9,987,796
営業利益	1,250,942	596,413
営業外収益		
受取利息	45	36
受取配当金	※2 22,561	※2 372,783
受取賃貸料	※2 68,022	※2 68,211
経営指導料	※2 37,704	※2 37,704
その他	※2 23,603	※2 23,890
営業外収益合計	151,936	502,625
営業外費用		
支払利息	13,785	19,849
賃貸費用	64,767	62,045
その他	8,891	-
営業外費用合計	87,444	81,895
経常利益	1,315,434	1,017,143
特別利益		
投資有価証券売却益	2,665	-
特別利益合計	2,665	-
特別損失		
固定資産除却損	483	2,483
特別損失合計	483	2,483
税引前当期純利益	1,317,615	1,014,659
法人税、住民税及び事業税	463,565	219,111
法人税等調整額	△36,841	10,585
法人税等合計	426,724	229,697
当期純利益	890,891	784,962

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					固定資産圧縮 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	1,975,125	2,290,923	2,290,923	39,780	851,084	8,720,000	3,508,412	13,119,277
当期変動額								
剰余金の配当							△220,201	△220,201
当期純利益							890,891	890,891
固定資産圧縮積立金の 取崩					△6,922		6,922	-
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	△6,922	-	677,613	670,690
当期末残高	1,975,125	2,290,923	2,290,923	39,780	844,161	8,720,000	4,186,025	13,789,967

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△2,095,739	15,289,586	258,156	258,156	15,547,742
当期変動額					
剰余金の配当		△220,201			△220,201
当期純利益		890,891			890,891
固定資産圧縮積立金の 取崩		-			-
自己株式の取得	△71	△71			△71
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			54,640	54,640	54,640
当期変動額合計	△71	670,618	54,640	54,640	725,258
当期末残高	△2,095,811	15,960,204	312,796	312,796	16,273,001



当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		固定資産圧縮 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	1,975,125	2,290,923	2,290,923	39,780	844,161	8,720,000	4,186,025	13,789,967
当期変動額								
剰余金の配当							△239,074	△239,074
当期純利益							784,962	784,962
固定資産圧縮積立金の 取崩					△6,922		6,922	-
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	△6,922	-	552,810	545,887
当期末残高	1,975,125	2,290,923	2,290,923	39,780	837,238	8,720,000	4,738,836	14,335,855

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△2,095,811	15,960,204	312,796	312,796	16,273,001
当期変動額					
剰余金の配当		△239,074			△239,074
当期純利益		784,962			784,962
固定資産圧縮積立金の 取崩		-			-
自己株式の取得	△184	△184			△184
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			98,778	98,778	98,778
当期変動額合計	△184	545,703	98,778	98,778	644,481
当期末残高	△2,095,996	16,505,907	411,575	411,575	16,917,482

## 【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

##### ① 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

##### ② その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

##### ① 商品・製品・仕掛品・原材料

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

##### ② 貯蔵品

最終仕入原価法によっております。

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。

建物	7～50年
構築物	7～20年
機械及び装置	7～12年
工具、器具及び備品	3～15年

#### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

#### (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき、当事業年度に見合う分を計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき、当事業年度に見合う分を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

外貨建金銭債権債務のうち為替予約を付すものについては振当処理によっております。また、外貨建予定取引の為替リスクのヘッジについては繰延ヘッジ処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約

ヘッジ対象…外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

外貨建取引の為替相場の変動によるリスクを回避するために、為替予約取引について、実需の範囲内で行うこととしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額等を基礎にして判断しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

※1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	80,170千円	75,321千円
短期金銭債務	1,492,387千円	1,742,254千円

※2. 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物	1,409,999千円	1,507,467千円
土地	1,547,764千円	1,547,764千円
計	2,957,764千円	3,055,232千円

担保に係る債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	1,650,000千円	1,650,000千円
1年内返済予定の長期借入金	194,040千円	258,120千円
長期借入金	1,244,260千円	1,595,920千円
計	3,088,300千円	3,504,040千円

3. 当座勘定貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座勘定貸越契約を締結しております。

これらの契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
当座勘定貸越極度額	1,600,000千円	1,600,000千円
借入実行残高	—千円	—千円
差引額	1,600,000千円	1,600,000千円

※4 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、当事業年度末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
支払手形	—千円	81,529千円
その他(設備関係支払手形)	—千円	507千円

(損益計算書関係)

※1. 販売費と一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
運賃	1,500,722千円	1,607,591千円
販売促進費	3,248,872千円	3,497,928千円
給料及び手当	1,957,998千円	1,925,281千円
減価償却費	130,688千円	135,590千円
賞与引当金繰入額	158,433千円	150,309千円
役員賞与引当金繰入額	33,000千円	17,000千円
退職給付費用	83,729千円	85,518千円
役員退職慰労引当金繰入額	38,125千円	38,000千円
貸倒引当金繰入額	△474千円	△200千円
おおよその割合		
販売費	85.6%	86.1%
一般管理費	14.4%	13.9%

※2. 各科目に含まれている関係会社に対する主なものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
(1) 営業取引による取引高		
売上高	218,509千円	237,317千円
仕入高	3,641,856千円	3,843,396千円
加工費	3,585,416千円	3,679,804千円
(2) 営業取引以外の取引による取引高	79,935千円	429,796千円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社出資金は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社出資金の貸借対照表計上額は次のとおりであります。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	578,843	578,843
関連会社出資金	313,515	313,515
計	892,358	892,358

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

## (1) 流動の部

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	75,550千円	70,059千円
棚卸資産評価損	29,324千円	13,515千円
未払事業税	14,233千円	7,151千円
その他	15,965千円	14,735千円
繰延税金資産合計	135,073千円	105,462千円

## (2) 固定の部

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	211,223千円	215,525千円
役員退職慰労引当金	203,686千円	215,314千円
投資有価証券評価損	37,112千円	37,112千円
その他	12,583千円	13,462千円
繰延税金資産小計	464,605千円	481,414千円
評価性引当額	△49,696千円	△50,574千円
繰延税金資産合計	414,909千円	430,839千円
繰延税金負債(固定)との相殺	△414,909千円	△430,839千円
繰延税金資産の純額	－千円	－千円
繰延税金負債		
固定資産圧縮積立金	372,252千円	369,157千円
その他有価証券評価差額金	94,361千円	134,025千円
繰延税金負債合計	466,614千円	503,182千円
繰延税金資産(固定)との相殺	△414,909千円	△430,839千円
繰延税金負債の純額	51,705千円	72,343千円

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.6%	1.6%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.1%	△10.8%
住民税均等割等	2.5%	3.1%
評価性引当額	△0.0%	0.1%
試験研究費の特別控除	△1.4%	△1.8%
生産性向上設備等の特別控除	△0.6%	－%
その他	△0.5%	△0.5%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	32.4%	22.6%

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④ 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

区分	資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却 累計額 (千円)
有形固定資産	建物	9,257,688	464,990	2,467	435,661	9,284,549	6,550,691
	構築物	130,593	4,977	—	13,733	121,837	222,819
	機械及び装置	96,079	8,369	16	33,977	70,454	1,341,623
	車両運搬具	90	—	0	90	—	—
	工具、器具及び備品	166,634	44,795	0	28,537	182,891	301,481
	土地	4,658,193	329,265	—	—	4,987,458	—
	リース資産	603,070	1,853,621	—	378,483	2,078,208	774,304
	計	14,912,349	2,706,018	2,483	890,483	16,725,400	9,190,919
無形固定資産	借地権	70,073	—	—	—	70,073	—
	ソフトウェア	44,973	80,336	—	16,147	109,162	40,325
	その他	21,062	71,688	77,736	289	14,724	559
	計	136,109	152,024	77,736	16,437	193,960	40,885

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	埼玉第二工場（埼玉県久喜市） 生産設備他	273,760千円
	埼玉工場（埼玉県久喜市） 生産設備他	186,630千円
工具、器具及び備品	埼玉第二工場 生産設備他	41,164千円
土地	厚生施設（長野県軽井沢町） 建設用地	329,265千円
リース資産	埼玉第二工場 生産設備他	1,521,003千円
	埼玉工場 生産設備他	299,706千円
	本社（東京都北区） コンピュータ関連設備	19,641千円
	食品総合ラボラトリー（東京都北区） 研究開発 用設備	13,269千円
ソフトウェア	埼玉第二工場 IT化システム開発費用	78,701千円
その他（ソフトウェア 仮勘定）	埼玉第二工場 IT化システム開発費用	71,688千円
2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。		
その他（ソフトウェア 仮勘定）	埼玉第二工場 IT化システム開発完了による振替	77,736千円

## 【引当金明細表】

科目	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	11,046	—	200	10,846
賞与引当金	244,500	228,954	244,500	228,954
役員賞与引当金	33,000	17,000	33,000	17,000
役員退職慰労引当金	665,642	38,000	—	703,642

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	有料
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのURLは次のとおりであります。 <a href="http://www.natori.co.jp/koukoku/index.html">http://www.natori.co.jp/koukoku/index.html</a>
株主に対する特典	株主優待制度として、期末現在の所有株式数に応じて当社製品詰め合わせを贈呈いたします。 100株以上1,000株未満 2,000円相当 1,000株以上3,000株未満 3,000円相当 3,000株以上 4,000円相当

(注) 当社定款の定めにより、当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を有しておりません。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利



## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第69期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) 平成29年6月30日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年6月30日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

第70期第1四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日) 平成29年8月7日関東財務局長に提出。

第70期第2四半期(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日) 平成29年11月7日関東財務局長に提出。

第70期第3四半期(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日) 平成30年2月6日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成29年7月4日関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月29日

株式会社なとり  
取締役会 御中

## 三優監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 岩 田 亘 人 ㊞

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 河 合 秀 敏 ㊞

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社なとりの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社なとり及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社なとりの平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社なとりが平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成30年6月29日

株式会社なとり  
取締役会 御中

## 三優監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 岩 田 亘 人 ㊞

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 河 合 秀 敏 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社なとりの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第70期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社なとりの平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 内部統制報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の4第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年6月29日

**【会社名】** 株式会社なとり

**【英訳名】** NATORI CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役会長兼社長 名 取 三 郎

**【最高財務責任者の役職氏名】** 執行役員 経営企画部長兼経理部長 安 宅 茂

**【本店の所在の場所】** 東京都北区王子5丁目5番1号

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役会長兼社長名取三郎及び最高財務責任者安宅茂は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用について責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成30年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しております。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社7社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。なお、持分法適用会社1社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）等を指標とし、前連結会計年度の連結売上高の3分の2を超える9事業拠点を「重要な事業拠点」としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として「売上高」、「売掛金」及び「たな卸資産」に至る業務プロセスを評価の対象としました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

## 4 【付記事項】

該当事項はありません。

## 5 【特記事項】

該当事項はありません。

**【表紙】**

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月29日

【会社名】 株式会社なとり

【英訳名】 NATORI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 名 取 三 郎

【最高財務責任者の役職氏名】 執行役員 経営企画部長兼経理部長 安 宅 茂

【本店の所在の場所】 東京都北区王子5丁目5番1号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)



1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役会長兼社長名取三郎及び当社最高財務責任者安宅茂は、当社の第70期(自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

